

評価グリッド結果表

1.実績の検証

評価項目	評価調査項目		必要な情報・データ	情報源・情報収集の方法	
	大項目	小項目			
投入の実績	投入は計画通り実施されたか	投入は計画通り行われたか。	投入の実績、投入計画と実際の乖離状況	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・<<専門家派遣>>中間評価時の合意事項を受けて、WiMAX技術を活用したワークショップ実施のため2人のネットワーク専門家が追加投入された。また、第3年次に実施した民間IT企業へのインタビューで、プロジェクトマネージャーが不足しており、プロジェクトマネージャ研修コース実施への要望が多かったことからプロジェクト最終年度にプロジェクトマネジメントコース開発および技術移転のため、本分野の専門家を追加した。 ・<<本邦研修>>運営指導調査で、改めて必要性が認識されたため、第3年次に第2回本邦研修、コースダイレクター(1人)、コンピュータネットワーク(3人)、ソフトウェア開発(2人)を1グループとして派遣した。中間評価時の合意事項を受けて、最終年度に実施される本邦研修はコンピュータネットワーク(6人)、ソフトウェア開発(5人)、マネージメント(6人)の3グループに分け、合計17を派遣することとなった。 ・<<機材調達>>プロジェクト期間中に発生したサイクロン「ナルギス」により被害を受けた校舎や変圧器などの修復を行った。また、ネットワークコースのワークショップの実践演習として、ラインキャンパスA棟のネットワーク構築のための機材、中間評価時の合意事項を受けて、最終年度にロガキャンパスのネットワーク・通信環境の構築のための機材が投入された。
		計画通り行われなかった場合、その原因と弊害は？	投入の遅れがどの程度活動の実施に影響を与えたか。	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家へのインタビュー、C/Pへのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・特に実施に影響を大きく与えた投入の遅れはない。 ・専門家によると、日本側の投入に関しては、プロジェクトの活動や成果の達成に影響を及ぼすような変更はなかった。 ・ミャンマー側の投入として、C/Pの配置があるが、地方大学への転勤などにより、定数を割る状況になったり、補充されたりと、流動的である。現在では、その流動性を外部条件と捉えずに、C/Pが入れ替わってもICTTIがコースを回してゆけるような、C/P養成の仕組みを確立しつつある。 ・C/P管理職によると、現在のC/P数(SW9人、NW9人、シスアド1人)の配置が、研修生数に対して割り振れる最大C/P数と認識しているので、この人数でICTTIを回す対策を講じる必要があるとの認識である。
成果の達成状況	成果1「ICTTIの組織・機能が確立・強化される」の達成状況	(指標1-1) 必要な数の適切な能力をもつC/Pが確保されているか	C/Pの数、役職、学歴、ITスキルレベル	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・地方大学への転勤などにより、定数を割る状況になったり、補充されたりと、流動的である。しかし、その流動性を外部条件と捉えずに、C/Pが入れ替わってもICTTIがコースを回してゆけるような、C/P養成の仕組みを確立しつつある。例えば、先輩教官が新教官とペアになって指導するなど。
		(指標1-2) 定期的にプロジェクトの進捗がモニタリングされているか	モニタリング結果報告書、結果のフィードバックの仕掛け	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・質問票の本質問項目に回答した専門家の75%、C/Pの100%ができている、と評価している。NWおよびSWの各々のグループでの毎週のグループ内報告会、メーリングリストやグループウェアを活用しての各種進捗報告や情報共有、プロジェクト全体進捗会議などによって、進捗はモニタリングされている。 ・課題としては、日々の進捗のみならず、さらに大枠の、C/P機関が率先してプロジェクトの自己評価をする、などのモニタリングができるようになればなお良い、という専門家の意見あり。
		その他組織・機能強化に関する成果	組織図 C/Pの業務内容	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンソースの教育管理システムである、Moodleがあらゆる局面で活用されている。受講生のプロフィールや各科目・単元ごとのテスト結果などの管理は、プロジェクトの前半から使用されていたが、フェーズ5では、外部からの一般受講生の研修生選抜試験もMoodleを使ってオンラインで実施された。 ・フェーズ4から受講生がコンピュータ大学の教員と修士課程の学生、そして外部からの民間人が混ざる形式になっている。受講生を最大数受け入れての研修実施に対応するため、C/Pの数と質を常に一定に保つ必要がある。特に質を確保するためには、既存のC/Pから、新C/Pへ技術移転がなされるような内部研修の仕組み確立が必要であるが、現在その仕組みも確立されつつある。 ・外部からの民間人を募集するにあたり、フェーズ4での教訓を活かし、受講生のスキルレベルを適切に評価する必要があるという課題が見つかった。例えば、ペーパーテストは優秀だが、実際にはPC操作をしたことがない人が入学してくるなど。その改善策として、フェーズ5の募集では、オンライン試験を実施した。
成果2「必要な供与機材が据付、運用、保守される」の達成状況		(指標2-1) 設置した機材が適切に作動しているか	機材の故障状況	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・長らく本プロジェクトでシステムアドミニストレータとして機材管理を担当していたC/Pが2009年6月に 人事異動で地方大学に転勤になり、システムアドミニストレータ定員2名のところ、1名減になっている。専門家によると、機材やLAN保守のDB管理に梃子入れたいが、担当者の能力、および人員不足が課題となっている。 ・プロジェクト中期までは過電圧、電圧の振幅が激しい問題に悩まされて来たが、現在状況は良くなってきている。 ・過電圧が理由の機材故障は減ったが、まだ機材の一部(PCのメモリー、スイッチ類、無線アクセス・ポイント、プリント・サーバ等)では、故障が発生している。これは一般的な維持管理の一環としてシステムアドミニストレータが保守・維持管理を行っている。 ・電源供給が不安定な点は変わらず。
		(指標2-2) C/PによってLANシステムが管理手順書に基づき適切に管理されているか	管理手順書に従って管理されているか	専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・質問票の本質問項目に回答した専門家の85.7%、C/Pの95%ができている、と評価している。C/Pは実際は手順書に基づいて管理しているというよりは、経験に基づくノウハウで解決しているようである、という専門家の意見もある。
		(指標2-3) C/Pによってソフトウェアが定期的に更新・管理されているか	ソフトウェアの更新回数 更新の管理方法(管理手順書の存在、それらに従って管理されているか)	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・質問票の本質問項目に回答した専門家の66.6%ができている、と評価している。 ・購入したPCの設定作業が遅れたり、ブレイクインストールされていたソフトウェア(MS-Office製品)がアクティブ化されておらず、またその期限も切れてしまったケースがあった。それに気がついた後、ソフトウェアをインストールし直して、対処した。

評価グリッド結果表

成果3「教官のICT関連技術における授業の実施能力が向上する」の達成状況	(指標3-1) 講師およびアシスタントによる授業の質が日本人専門家の認定するレベルに到達しているか	各コースの授業の質に関する専門家の判定	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家への質問票で確認、必要に応じて専門家へのインタビュー	・フェーズ3修了段階で、専門家は概ね所定のレベルに達したと評価したが、今回も、質問票の本質問項目に回答した専門家全員が達している と評価している。 ・専門家によると、ネットワークコースでは、現在専門家のサポートは最低限にとどまり、カリキュラム、教材の更新がC/Pにより自発的に行われている。C/Pにより更新されている教科書や最終試験は、毎回質の向上が感じられる。 ・授業の質向上に直接および間接的に関わるC/Pのスキル向上についてであるが、教官しかしたことがないC/Pにとって、実務経験の蓄積(実践的ワークショップ)は非常に役立っている。SW分野としては実際に大学で活用できるアプリケーションの開発、NW分野ではラインキャンパスの本館ネットワーク整備や、ログキャンパスとのWiMax接続設計などと、C/Pは専門家とともに実務経験をしている。
	(指標3-2) 学生が教官の指導方法に満足しているか	学生の満足度	コース修了時点での満足度調査結果 フェーズ4の修了生への追跡調査	・Moodleに保存されている第3および第4フェーズの各コース修了時点での満足度調査結果によると、教官の指導方法に関する評価は高かった。 ・フェーズ4の修了生への追跡調査は、回答回収率が低く、再度やり直す予定である。
成果4「訓練コースのカリキュラム、シラバス、教材が整備され、必要に応じて改訂される」の達成状況	(指標4-1) ITスキル標準に沿ったネットワークとソフトウェアコースのカリキュラム・シラバス・教科書・演習教材・修了試験が作成されているか	各コースのカリキュラム・シラバス・教科書・演習教材・修了試験	各コースのカリキュラム・シラバス・教科書・演習教材・修了試験	・各コースのカリキュラム・シラバス・教科書・演習教材・修了試験は作成されている。
	(指標4-2) カリキュラム・シラバス・教科書・演習教材・修了試験それぞれの改定マニュアルが作成されているか	改定マニュアルは作成されているか 改定の仕組み、運用方法(どのようなタイミングで、どうやって改定するのか) 改定されたカリキュラム・シラバス・教科書・演習教材・修了試験	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	・シラバス、教科書、演習教材、修了試験、入学試験に関して、改定マニュアルは作成され、ほとんどの専門家はこれらをC/Pだけで改定してゆけると考えている。しかし、カリキュラムについては、まだ指導が必要と考える専門家も半数弱いる。 ・これからもC/Pがこれらを自力で改定してゆくに当たり、以下のような課題が専門家から挙げられた。 現在授業を行っている範囲内であれば、教科書、演習問題、試験問題の向上を見ることが出来る。しかし、業界のトレンドに対して、CPの情報収集能力は低いと感じられる。一方、情報入手制限(企業研修参加、最新書籍、インターネットアクセス制限)も、C/Pが新技術動向を把握するのが困難にしている。 ・専門家によると、ネットワークコースでは、現在専門家のサポートは最低限にとどまり、カリキュラム、教材の更新がC/Pにより自発的に行われている。C/Pにより更新されている教科書や最終試験は、毎回質の向上が感じられる。 ・専門家によると、教材の改定は専門家の指示が無くてもCPが自発的に行っていて、おおむね適切な更新がされていると確認できる。
	(指標4-3) 学生がカリキュラム・シラバス・教科書・演習教材に満足しているか	学生の満足度	コース修了時点での満足度調査結果 フェーズ4修了生への追跡調査	・第4フェーズの学生によるカリキュラム、シラバス、教材に関するアンケートの評価結果によると、SWとNWコースの全てのクラスにおいて5段階中4以上であった。途中からプロジェクトに参画したC/Pがレベル3に到達することが今後の課題である。

プロジェクト目標の達成状況	プロジェクト目標「ICTTIが演習中心のICT訓練を実施できるようになる」の達成状況	(指標1) ICTTI教官がITスキル標準レベル3相当のICTに関する能力を身につけているか	専門家による各教官のレベル判定	専門家への質問票で確認	・専門家は第2フェーズ修了後に殆どのC/Pがレベル3に達したと判断した。
		(指標2) ニーズに応じた訓練コースを年に2回体系的に実施されているか	訓練コースの実施回数 ニーズの判断方法とそれに合わせたコースに改定しているか	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー 訓練コースがニーズに合致していたかについてのフェーズ4修了生への追跡調査	・訓練コースは計画通り、年2回実施されていて、現在フェーズ5を実施している。ただし受講生は、フェーズ3まではコンピュータ大学の教員と大学院生だったが、フェーズ4から外部民間人も受講生にしている。ターゲットグループが多様化している中で、ニーズをどう捉えるかが課題である。 ・今後、修了してしばらく経った元受講生に対しても追跡調査を行い、ニーズにあっているのか、把握してゆく必要がある。このニーズ把握の方法を確立する必要がある。手始めに、修了生へのメールでのアンケートを実施したが、回収率が良くなく、12人からしか回答が得られなかった。新技術セミナーに卒業生を招待し、その時に回答してもらうなど、手法の改善が望まれる。
		(指標3) 訓練コース修了生がITスキル標準レベル2相当の能力に達する割合が年々増加する。	修了試験結果	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	・中間評価の後改定されてPDMVersion2.1から追加されたプロジェクト目標の指標である。 ・フェーズ2の段階では、専門家から技術移転を受けたばかりのC/Pが教えていたため、低かった。 ・その後、フェーズ3では、教授法も改善され、ITSSレベル2相当に達した修了生の割合も増加している。 ・フェーズ4では、既にICT関連企業等で経験がある外部からの学生も受け入れ始めたため、その割合は飛躍的に向上した。 ・割合の増加を指標とすると、それは、学生のもととのレベルに大きく左右されるため、適切な指標とは言えない。 ・年を追うごとに、レベル2相当に達した修了生の合計人数が増加するという指標に変更をするよう提言する。
		(指標4) ICT関連大学から参加した修了生の授業の質が向上する。	活動3-10の「ICT関連大学で講師として勤務する修了生の授業の質」のモニタリング結果	活動3-10のモニタリング結果 専門家と、第3と4フェーズ大学教員修了生への質問表で確認、必要に応じてインタビュー	・中間評価の後改定されてPDMVersion2.1から追加されたプロジェクト目標の指標である。 ・この指標を測るために、活動3-10が実施されなければならないが、まだ現状活動3-10は実施されていない。修了生の授業の質をどう評価するのか、この活動実施の方策について検討する必要がある。例えば、C/Pないしは専門家が実際に目で見て確認するのか、質問票の本質問項目に対する回答で判断するのか等。
上位目標の達成状況	上位目標「ICTTIから、質の高い修了生が毎回継続的に輩出される」の達成状況	(指標1) プロジェクト終了後、3年間の修了生が600人に達する見込みか	応募者数実績、修了生輩出実績 修了生輩出計画	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	・現在までの受講生の実績は、以下の通り。フェーズ2は45人、フェーズ3が72人、フェーズ4が105人、フェーズ5が92人。フェーズ6での計画は、130人。新たなコース例えば「プロジェクトマネジメントコース」が追加されたこと、これから短期コースも開催してゆく方向にあり、短期コース参加者数も数に入れると、目標は達成できる見込みと判断する。

評価グリッド結果表

2.実施のプロセス

評価項目	評価調査項目		必要な情報・データ	情報源・情報収集の方法	
	大項目	小項目			
活動の実施状況	活動は計画通り実施されているか。	PDM Ver3の活動に基づき確認する 活動1-1から1-6 活動2-1から2-5 活動3-1から3-10 活動4-1から4-10	計画通り実施されなかった活動の抽出。 実施されなかった理由。	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	終了時評価時に、まだ実施されていない活動、強化が必要な活動は以下の通り。 1-6新しく採用された教官を対象とした、持続可能な訓練手順が確立される。 仕組みを確立することを意識し始めたが、これから自立発展性を確保するためにも、さらなる強化が必要である。 4-6修了生の就職先企業に対してアンケートを実施する。 (これから開催されるワークショップに企業からの人を招き、その人たちにお願いする策をとる予定) 4-10修了生を対象としたフォローアップ活動が実施される。 このうち、1-6と4-10はUCSY,プロジェクト専門家チーム、JICAミャンマー事務所との協議により、2009年7月のPDM改定(Ver2.1からVer3.0)時に追加された活動である。
			計画通り活動が実施されなかったことで、成果の達成に影響は生じているか。	専門家とC/Pへの質問票で確認 専門家とC/Pへのインタビュー	・特に大きな影響を与えているものはない。
モニタリングの実施状況	モニタリングは適切に実施されているか。	JCCが適宜開催され、プロジェクトの運営に活用されているか	PIU開催回数、出席者、課題。	第一、二年次業務完了報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認 専門家とC/Pへのインタビュー	・今までに予定通り3回開催され、プロジェクトの進捗確認、プロジェクトが抱える課題への対応策の決定などが行われた。終了時評価中の2009年9月11日にプロジェクト期間最後のJCCが開催され、終了時評価の結果報告がなされた。
		定期的にミーティングを開催するなど、その他モニタリング活動は実施されているか	ミーティングの開催状況	第一、二年次業務完了報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認 専門家とC/Pへのインタビュー	・毎週月曜日に専門家チームとProject Manager, Course Directorとのミーティング、および、左記人員プラス、C/Psを含めての進捗確認会議を開催して、プロジェクト活動をモニタリングしている。 ・カリキュラムレビュー会議をProject Manager, Course Directorおよび担当の専門家とC/Psが参加して毎月開催し、授業内容改善や、学生のパフォーマンスや合否判定などの、協議をしている。
専門家とカウンターパートの関係	技術移転の方法に問題はなかったか	コミュニケーションは継続的に行なわれているか	専門家、C/Pの認識	専門家とC/Pへの質問票で確認 必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	・質問票の本質問項目に回答した専門家およびC/P全員が、C/Pと専門家間のコミュニケーションは充分に行われている、と評価している。評価分析担当も現場にて、その状況を確認した。
		専門家の能力は適切か(人数、専門性)	C/Pの認識	C/Pへの質問票、 必要に応じてインタビュー	・質問票の本質問項目に回答したC/P全員が、適切である、と回答している。
		カウンターパートは技術移転のために十分時間を費やしているか。	専門家とC/Pの認識	専門家とC/Pへの質問票、必要に応じてインタビュー	・C/Pの中でもっとも人数が多い博士課程4期生の学位取得にむけての論文審査や研究成果発表が集中した2008年12月から2009年1月にかけては、審査役のシニア組を含む多くのC/Pが多忙をきわめ、半月以上ICTTIに殆ど来られない、という状況があった。これは特殊なケースであり、今後再発はないと思われる。しかし、このような事態に備えて、代替教官要員を確保しておくことも、今後に安定的にコースをまわしてゆくために必要であろう。 ・2009年6月頃からProject Directorの判断で、C/PがICTTIの授業がない日は、週に2回ほどログ・キャンパスに出張して講義を行うことになった。そこで、C/Pの負担は高まっている。 ・しかし、これは実習講義の要望が強く、C/Pが乞われて教えに行っていることから、波及効果は期待できる。
		カウンターパートの能力は適切か。	専門家の認識	専門家とC/Pへの質問票、必要に応じてインタビュー	・専門家によると、モチベーションも高く、能力も充分つけてきている。
カウンターパートのオーナーシップ	カウンターパートが主体性を持ってプロジェクトを運営しているか	カウンターパートは自主的に活動を行っているか。	専門家の認識 自主的に活動を行った事例	第一、二、三年次業務完了報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	・質問票の本質問項目に回答した専門家の全員が、C/Pのオーナーシップはある、と評価している。そう判断した事例としては、以下のような点が挙げられる。 生徒のワークショップの評価方法に関して、C/Pがどのような立場で各チームを指導していくか議論し、自ら評価方法を決定している。 休日出勤や残業を厭わずに、講義準備やナレッジ・シェアをやっている。 評価分析担当も、現場でC/Pが夜遅くまで熱心に**している様子を観察した。
マネジメント体制	日本のプロジェクト実施体制は適切か	プロジェクトの実施を促進・阻害する要因はあるか プロジェクトの成果発現に関する貢献・阻害要因はあるか	課題の抽出	JICA担当者、日本側プロジェクト総括、ミャンマー側プロジェクトディレクターへのインタビュー	・日本側専門家チームも、ミャンマー側マネジメント層と積極的にコミュニケーションを取るよう心がけており、双方のコミュニケーションは改善されてきた。 ・JICA本部、JICA事務所、日本側専門家チームのプロジェクト実施体制は良好である。
	ミャンマー側のプロジェクト実施体制は適切か	プロジェクトの実施を促進・阻害する要因はあるか プロジェクトの成果発現に関する貢献・阻害要因はあるか	課題の抽出	JICA担当者、日本側プロジェクト総括、ミャンマー側プロジェクトディレクターへのインタビュー	・学長が多忙で、プロジェクトの方針等について、日本側専門家チームと頻繁には協議ができない、また、ICTTIの今後の方針や戦略について、C/P管理職層がVisionを持っていない、という課題が中間評価時に指摘されたが、現在は徐々にその状況が改善されてきている。 ・MOST大臣の意見で、今まで協議してきた計画や方針が急に変わることがあるなど、専門家によると、UCSYとMOST間のコミュニケーションがうまくいっていないケースが見受けられる。

評価グリッド結果表

3.評価5項目による評価

評価項目	評価調査項目		必要な情報・データ	情報源・情報収集の方法	
	大項目	小項目			
妥当性	ミャンマーの国家開発計画、IT政策との整合性	プロジェクト形成時から、国家開発計画とIT政策に変更はあるか	最新の開発計画、IT政策	文献調査	<ul style="list-style-type: none"> IT政策に特に変更なし。 プロジェクトドキュメント(Ver4.00)にあるように、韓国の支援によって改定版が作成されたICTマスタープランは未承認、アクションプラン検討も未着手。
		ミャンマーIT市場の動向	IT市場は予定通り成長しているか。	プロジェクト開始以降のIT市場の動向、市場の成長率	文献調査 ミャンマーコンピュータ連盟へのインタビュー
		IT技術者へのニーズは堅調であり、その内容に変化はないか。	IT人材へのニーズ	文献調査 ミャンマーコンピュータ連盟へのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 専門家によるマンダレー視察報告書によると、マンダレーにおいては、現地エンジニア求人数に比して、ICT関連大学卒業生の数がこれから増えてゆくと供給過剰になることが懸念されるが、実施には企業が求めるレベルに達している卒業生は多くなく、本プロジェクトの成果の地方への波及が求められている。
	受益者のニーズとの整合性	受講生ターゲットグループの変更は適切な選択であったか	重要関係者(JICA担当者、日本側プロジェクト総括、ミャンマー側プロジェクトディレクター)の認識	JICA担当者、日本側プロジェクト総括、ミャンマー側プロジェクトディレクターへのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ICTTIの研修受講生のうち大学教官については、その教官が所属大学でICTTIに身に着けた技術をベースに教えれば、IT労働市場に輩出される学生の修得技術レベルも間接的に上がることになる、との理解。 一旦は大学教官に変更されたが、フェーズ4からは民間人材も研修に参加できるようになっており、最終的には当初の計画から大きく変わっていない。
		各受講生ターゲットグループ(コンピュータ大学の教員と民間からの研修生)のニーズに適した授業が行われたか	受講生の満足度	コース修了時点での満足度調査結果 フェーズ4修了生への追跡調査	<ul style="list-style-type: none"> フェーズ4修了者から、ICTTIの授業は実践的で仕事に活かせるという声がある。 しかし活動4-6および4-10で詳細な追跡調査が必要
	日本の援助政策との整合性	対ミャンマー国別援助計画と本プロジェクトの目標は整合しているか。	最新の国別援助計画	文献調査	<ul style="list-style-type: none"> 国別援助計画の当該分野に関してはプロジェクト実施後改定されていない。
		対ミャンマー国別事業実施計画と本プロジェクトの目標は整合しているか。	最新の国別事業実施計画	文献調査	<ul style="list-style-type: none"> 国別事業実施計画の当該分野に関してはプロジェクト実施後改定されていない。
有効性	プロジェクト目標の達成見込み	上述1.実績の検証のプロジェクト目標の達成状況の確認	上述1.実績の検証のプロジェクト目標の達成状況結果 プロジェクト終了時までの達成見込み	専門家とC/Pへの質問票で確認 専門家とC/Pへのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 上述1.実績の検証のプロジェクト目標の達成状況の結果を分析すると、プロジェクト目標はほぼ達成できると判断する。 ただし、プロジェクト目標達成の指標2にあるような、ICTを取り巻く環境が変化する中で、今後もニーズに応じた訓練内容に授業を改定しながら実施してゆくためには、修了生からのフィードバックを得て、訓練内容を更新してゆくプロセスをC/Pが経験することが必要である。現段階では未実施の活動4-6や4-10を実施し、C/Pがその力をつけてゆくことが望まれる。 中間評価後に追加された指標4に関しては、活動3-10が未実施なので、達成されたかどうかの判断はできない。しかし、この指標4の成果が、直接プロジェクト目標達成度合いに影響を与えるものではないと考える。
		達成が不十分な場合はその原因	課題の把握	専門家とC/Pへの質問票で確認 専門家とC/Pへのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト目標レベルでは達成されていると、考えるが、指標レベルでは上述のように一部達成されていない指標があるので、速やかにその指標を達成するための活動ができるように、まずは「ミ」側とプロジェクトが協力して。その活動実施の環境が整えられること(教官である修了生の授業見学や、民間からの修了生からの本コースへのフィードバック)が望まれる。
	プロジェクトのアウトプットは、プロジェクト目標の達成に貢献しているか	機材はICTTIのトレーニングに活用されているか	研修に使われた機材の種類と頻度	第一、二、三年次業務完了報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家への質問票で確認、必要に応じて専門家へのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 質問票に回答した専門家全員が活用されていると回答している。必要のない機材はない、という認識。 機材のフル機能をC/Pが使いこなすには、C/Pが他の業務で忙しすぎるという課題がある。
		カウンターパートの実習中心の教授能力は向上しているか	上述1.実績の検証の成果3の達成度	第一、二、三年次業務完了報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家への質問票で確認、必要に応じて専門家へのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> C/P全員がプロジェクト目標達成指標1「ICTTI教官がITスキル標準レベル3相当のICTに関する能力を身につけているか」が達成されていることから、達成されていると判断する。
	カリキュラム、シラバス、教材は実習中心のものになっているか	カリキュラム、シラバス、教材の内容	カリキュラム、シラバス、教材 専門家への質問票、必要に応じてインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 専門家が作成した実習中心のカリキュラム、シラバス、教材に沿って実施されていることから十分な内容になっている。 	
	プロジェクト以外にプロジェクト目標達成に貢献した要因はあるか		専門家、C/Pへの質問票、必要に応じてインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク専門家によると、プロジェクトの組織内には入っていないが、副学長がUCSYの技術的なサポートをする部隊を指揮しており、本プロジェクトに対し理解があり、ネットワーク構築に関して、その部隊を動かし、ISPとの窓口になってくれたり、「ミ」側にアレンジしてもらわないと困難な事項の調整をしてくれた。 	
	プロジェクト目標達成の貢献・阻害要因	中間評価時に指摘された阻害要因のその後改善状況の確認 ①ICTTIのマネジメント能力 ②C/Pの異動・欠員 ③インターネット接続 ④電圧振幅	第三年次業務完了報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家への質問票で確認、必要に応じて専門家へのインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> ①ICTTIのマネジメント能力 プロジェクトディレクタおよびプロジェクトマネージャも、徐々にJICA技術協力プロジェクトのやり方に慣れてきて、マネジメント能力も向上しつつある、との専門家の評価 ②C/Pの異動・欠員はあるが、残りのC/Pの努力によりカバーされている。 C/P管理職によると、現在のC/P数(SW9人、NW9人、シスアド1人)の配置が、研修生数に対して割り振れる最大C/P数と認識しているので、この人数でICTTIを回す対策を講じる必要があるとの認識である。 ③インターネット接続 ミャンマー側の自助努力により光ファイバーによるインターネットアクセスが実現した。 ④電圧振幅 変圧器の交換を行ったことから電源問題は収束に向かっている。 	

評価グリッド結果表

		外部条件「ミャンマー政府はICTトレーニングの実施に向けて、必要な予算を確保し、適切な手続を行なう。」は確保されているか	左記は前提条件との区別が明確でない。		・トレーニング実施に向けての予算措置はしており、今後は機材の保守費、アップグレード費、ラインキャンパスとロガーキャンパス間の無線接続料金の支出を確実にしてゆくことが求められる。 ・学長によると、予算措置を確実にするためにも本プロジェクトの成果を科学技術省に示していくことが必要であり、その責は学長が負っている。
		外部条件「優秀なICT関連大学卒業生がICTTIへの入学を希望する」は確保されているか	入学希望者の質	入学試験結果の推移	・各フェーズの学生数、およびフェーズ4およびフェーズ5の応募者数と学生数はMMのAnnex10に添付 フェーズ4 SW 大学教官 34人(165人) NW 大学教官 36人(95人) SW 民間 20人(173人) NW 民間 15人(137人) フェーズ5 SW 大学教官 15人(70人) NW 大学教官 24人(45人) SW 民間 19人(75人) NW 民間 34人(55人) プロジェクトマネジメントコース 10人
		前提条件「UCSYによりICTTIの予算が措置される」は確保されているか	ICTTIへの予算措置状況	文献調査、C/Pへのインタビュー	・専門家によると必要な予算措置はなされている。今後、機材の保守費、アップグレード費、ラインキャンパスとロガーキャンパス間の無線接続料金の支出を確実にしてゆくことが求められる。
		プロジェクト体制面、財政面、人的資源面から見たプロジェクト目標達成への貢献・阻害要因は何か。		第三年次業務完了報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家への質問票で確認、必要に応じて専門家へのインタビュー	<貢献要因> ・生徒一人に一台の演習用PC等が使用できる環境が、演習中心の訓練を可能とした。 ・C/P側のやる気と協力姿勢 ・JICA本部の追加調達などの継続的支援拡大 ・C/P間で情報共有を積極的にするという気質と雰囲気や、人を蹴落とすような態度を取らない点。 <阻害要因> ・「ミ」国政府内の政策が外国人や組織には見えにくく、情報が伝わってこない。 ・C/Pへのプロジェクト以外の業務アサインが多かった時期があり、十分に技術移転ができない時期があった。 ・中規模以上の企業では多く使われているCISCOを扱うコースがないのは、真に必要とされているネットワークエンジニア人材育成を考えると今後検討する必要がある。 ・ICTTIで教えているオープンソースソフトウェアは、海外のIT産業界では良く使われているが、ミャンマーのIT産業界では余り使われていない。 (ミャンマーでは違法ライセンスのソフトが当たり前のように出回っており、ミャンマーでは正規に購入できないライセンスをソフトの方が一般的になっている。
効率性	日本側の投入は適切か。 適切でなかった場合はその原因と、成果発現への影響	専門家の数、専門性、派遣時期は適正であったか。	専門家派遣は予定通り実施されたか。変更や追加があった場合、その変更追加は妥当であったか。 C/Pの満足度	第一、二、三年次業務完了報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家への質問票で確認、必要に応じて専門家へのインタビュー	・質問票の本項目に回答した70%が、適切であったと評価している。しかし30%(10人中3人)は余り適切でなかったと評価。 ・その理由としてC/Pや現地業者側の都合による調達品の納期遅れや工事の工期の変更に伴って、柔軟にその分野担当の専門家派遣期間が延長できなかった。
		供与機材の種類と量は過不足なかったか。	供与機材の種類や量に関する専門家、C/P、JICA担当者の認識	専門家、C/P、JICA担当者への質問票、必要に応じてインタビュー	・質問票の本項目に回答した専門家70%が、丁度良かったと評価している。C/Pの85%は適切と判断しているが、量に関しては、19人中3人が多い、多少、多かったと回答している。 ・ソフトウェアに関して、オープンソースだけでなく、企業現場で多く使われている商用ソフトもある程度導入した方が良かったという専門家およびC/Pからの意見がある。
		供与機材の投入タイミングは適切であったか。	供与の時期に関する専門家、C/P、JICA担当者の認識	専門家、C/P、JICA担当者への質問票、必要に応じてインタビュー	・質問票の本項目に回答した専門家全員が、適切であったと評価している
		機材はICTTIのトレーニングに活用されているか	研修に使われた機材の種類と頻度	第一、二、三年次業務完了報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家への質問票で確認、必要に応じて専門家へのインタビュー	・質問票に回答した専門家全員が活用されていると回答している。必要のない機材はない、という認識。 ・機材のフル機能をC/Pが使いこなすには、C/Pが他の業務で忙しすぎるという課題がある。
		本邦研修の受け入れ人数、研修内容、期間は過不足なかったか。	本邦研修の人数、研修内容、期間に関する専門家、C/P、JICA担当者の認識	専門家、C/P、JICA担当者への質問票、必要に応じてインタビュー	・質問票に回答した専門家8人中7人が丁度良かったと回答している。 ・ネットワーク専門家の意見として、現在この国にない、しかし、将来はほぼ確実にこの国でも登場する設備やサービスを、先行して自分の目で見る事ができる本邦研修は、非常に有意義な経験となったと思われる。この点からできるだけ多くのC/Pを本邦研修に送りたい。
		本邦研修の時期は適切であったか。	本邦研修の時期に関する専門家、C/P、JICA担当者の認識	専門家、C/P、JICA担当者への質問票、必要に応じてインタビュー	・質問票の本項目に回答した専門家全員が適切であったと回答している。
		研修の成果は業務で活用されているか	活用事例	専門家、C/Pへの質問票、インタビュー	・質問票の本項目に回答した専門家全員が適切であったと回答している。 実際の活用例としては、 本邦研修で得た知識、見聞を積極的に授業で紹介している。 本邦研修参加C/P主催で他のC/Pに対して勉強会を開催した。 ICTTIにはないが、企業では多く使われているCISCOのマレーシアでの研修を生かして、現在授業やネットワークの設計に役立てている。 日本で見たSUICAカードを一例に、ユビキタスの話を講義に取り入れている。これは実体験していないと話せない内容である。
		ミャンマー側の投入は適切か。 適切でなかった場合はその原因と、成果発現への影響	C/Pの数、能力、配置の時期は適正であったか	投入予定と実際の乖離状況	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー
		C/Pの能力は適切か	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	・専門家たちは適切であると評価している。	
		必要なプロジェクト運営費は出費されているか	プロジェクト運営費の出費状況	現地でチェック	・質問票の本項目に回答した専門家5人中4人が確保されていると回答。課題としては、ミャンマー側の予算として明確に配分されているわけではなく、オンデマンドでリクエストする必要がある点。

評価グリッド結果表

		建物・施設は適切に提供されたか	投入予定と実際の乖離状況	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	・建物はプロジェクトで改善済み。 ・プロジェクト中期までは過電圧、電圧の振幅が激しい問題に悩まされて来たが、変圧器の交換によって現在状況は良くなってきている。
インパクト	上位目標の達成見込み	(指標1) プロジェクト終了後、3年間の修了生が600人に達する見込みか	応募者数実績、修了生輩出実績 修了生輩出計画	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家とC/Pへの質問票で確認、必要に応じて専門家とC/Pへのインタビュー	・現在までの受講生の実績は、以下の通り。フェーズ2は45人、フェーズ3が72人、フェーズ4が105人、フェーズ5が92人。フェーズ6での計画は、130人。新たなコース例えば「プロジェクトマネジメントコース」が追加されたこと、これから短期コースも開催してゆく方向にあり、短期コース参加者数も数に入ると、目標は達成できる見込みと判断する。
		訓練コース修了生がITスキル標準レベル2相当の能力に達する割合が年々増加するか(指標2)	レベル2に到達する割合	専門家とC/Pへの質問票で確認 専門家とC/Pへのインタビュー	・各フェーズごとに増加している。達した者の割合は、フェーズ2: 4%(SW) 0%(NW) フェーズ3: 8%(SW) 6%(NW) フェーズ4: 19%(SW) 16%(NW)
	経済面でのインパクト	ミャンマーIT産業の発展に寄与できるか	民間からの修了生の勤務先(Feasible?) 修了生受け入れ企業の意見	民間からの受講生の勤務先 民間からの受講生受け入れ企業へのインタビュー	フェーズ4から大学関係者ではなく、外部の人材を受講生として迎えている。フェーズ4では35人、現在実施中のフェーズ5では53人である。彼らは有職者、無職者が混ざっている。これら受講生の追跡調査をしないと、まだインパクトまで判断できるレベルにはない。まずは活動4-6を実施する必要がある。
	技術面でのインパクト	他大学への波及度	コンピュータ大学教員受講生の現在の勤務先状況 活動3-10の「ICT関連大学で講師として勤務する修了生の授業の質」のモニタリング結果	活動3-10のモニタリング結果 専門家と、第3と4フェーズ大学教員修了生への質問票で確認、必要に応じてインタビュー	下記の事象があることから、他大学への演習中心の授業の普及やLMSの導入などが他大学へも普及するという波及効果が、これから徐々に出てくると判断する。 ・2009年6月から授業を持たないICTTIのC/Pは、ロガ・キャンパスに週に2回程度出張して、実習の講義をすることとなった。 ・ICTTIの研修コースに参加した教官がいるシャン州の3大学から出張講義の要請があり、ネットワークC/P1人が1ヶ月半をかけて3大学を巡回してネットワークの基礎に関する出張トレーニングを行うことになった。(2009年6月) ・CUSYはミャンマー全国にあるコンピュータ大学のネットワーク環境が整備されるに伴い、その整備が終わったキャンパスから順次Moodleの導入と使用を計画している。既にネットワーク環境の整備を進めているロガキャンパスにおいて、UCSYのカリキュラムの中にMoodleを随時導入するアイデアが自主的に進行中である。 ・ICTTIの教官が人事異動で地方大学へ行っていることも、波及効果を生む土台にはなると考えられる。 ・C/Pによると、UCSYロガキャンパスでのソフトウェア開発関係の授業の中に、ICTTIのテキストを基にした、ソフトウェア設計ツールの使い方を紹介する項目が追加されたこと。カリキュラムやシラバスまで、改定することはできなかったり、実習環境がICTTIとロガキャンパスでは全く違うなどの制約がある中、取り入れられる部分は部分的にUCSYの授業に取り入れられていることが分かる。 ・UCSのカリキュラム、シラバス、教科書群は、既に作成されたものを、どのキャンパスでも同じく使用しているため、若手教官は、それらの作成を経験したことはなかった。ICTTIで、それらの作成、および定期的な改定を経験し、初めてその必要性に気づき、少しずつUCSYの授業でも、許容範囲内で、新しいトピックを挿入しているとのこと。 ・フェーズ4の修了生数人がある企業に卒業後雇われ、ICTTIのワークショップで実習したネットワーク構築を、実際にその会社用に行っている。また、ICTTIのワークショップ題材を使って、社内の社員教育もしている。ICTTIでは、実際の機材はなく、シミュレーションでやっていた部分も、その企業では実際に機材を購入予定とのこと。(C/P談) ・ICTTIの修了生が、インターネットカフェの構築で活躍しているとのこと。(C/P談) ・それまでは、民間企業とコンタクトを取る機会がなかったが、ネットワーク構築作業を通して、民間企業とコンタクトを取る機会を得られた。それにより、民間企業とのコネクションができたり、企業から技術的なアイデアを得ることができた。(C/P談)
		コース修了生とそうでない人との、仕事の業績に差異があるか。	コース修了生の仕事の業績評価	教員の場合は、活動3-10のモニタリング結果 社会人に関してはその上司の評価	・コンピュータ大学の教官でトレーニングコースに参加した修了生が、ICTTIで習得した知識や技術を自分の大学で広め始めていることが、インタビューや質問票により確認でき、徐々にではあるが、実習中心のICTトレーニングが他のコンピュータ大学に広がり始めている。 ・フェーズ4修了生を雇用した企業に対するインタビューからは、ICTTIの修了生は実践力があるとの評価が出ている。
自立発展性	政策・制度面	IT産業振興の重要性は継続されるか。	最新の開発計画、IT政策	文献調査	・継続される見込みである。MCFとのインタビューによると、IT産業マーケットは発展しつつある。
	組織・体制面	C/Pの配置転換計画	C/Pの配置転換計画と、そのプロジェクト運営への影響	第一、二、三年次業務完了報告書、進捗報告書 第四年次に関しては月例業務報告書 専門家への質問票、インタビュー	・年齢構成なども配慮して、MOSTが確定するので、なかなか難しい。最初は問題が起こっていたが、、、、
		経験のあるC/Pが新C/Pを育成する体制は確立しているか。	新C/P育成制度	専門家とC/Pへの質問票、インタビュー	・質問票の本項目に回答した専門家の10人中9人はこの仕組みが確立していると評価。新C/Pはまずコースを修了し、それから経験のあるC/Pとともに実務をすることから、業務に必要な知識を学んでいる。また、経験のあるC/Pが新C/Pを指導している場面を多く目にする。そして新C/Pがちゃんと職務をこなしているという事実から判断。
		C/PのICTTI運営管理能力はあるか。	C/Pのキャパシティ	専門家への質問票、インタビュー	・質問票の本項目に回答した専門家の10人中7人は充分であると回答。3人は余り充分ではないと回答。課題は、C/Pのキャパシティよりも、C/Pが他の業務と兼務になり、ICTTIの業務に専念できなくなり、運営管理がうまく回らなくなることが懸念される。
		中期的な事業計画は作成されているか。	計画の有無	C/Pへの質問票、インタビュー	・MOSTの意向により中期計画は策定されていない。
		C/Pのモチベーションは高いか。	スタッフのモチベーションの現状	専門家へのインタビュー	・質問票の本項目に回答した専門家の10人中9人、C/P全員がモチベーションは高いと回答。 ・C/Pへのインタビューからもモチベーションは高いと判断される。
	財務面	財務状況は良好か	ICTTIの財務状況	現地で収集、C/Pへのインタビュー	・比較的良好である。現在、機材の保守、アップデート費、WiMAX接続料金を捻出中。
		中期的な財務計画は作成されているか	中期財務計画の有無	現地で収集、C/Pへのインタビュー	・専門家とともに作成した。
	技術面	機材・設備のメンテナンス計画(財政面を含む)は作成されているか	メンテナンス計画の有無	C/Pへの質問票、インタビュー	・現在作成中
		獲得された技術・ノウハウが維持されるか。	トレーニングの必要性	専門家およびC/Pへの質問票、必要に応じてインタビュー	・専門家によると、C/Pは貪欲に学んでいるので、既に専門家から技術移転された知識・スキルに関しては維持されると判断される。
		ICTTI教官として常に知識・技術を更新し続けてゆく手立てを身につけているか	C/Pが持っている、情報源や知識・技術向上の手立て	専門家およびC/Pへの質問票、必要に応じてインタビュー	・質問票の本項目に回答した専門家全員が身につけていると回答。 C/P個人はそれぞれ、手立てを身につけていると考えられるが、社会体制などに起因する課題はある。 ・テキストや教材がシステムのバージョンにあわせてC/P自ら更新したり、インターネットやマニュアルから問題解決方法を見つけ出すことができてきている。 ・専門家もプロジェクト開始時からこの手立てを身につけられるようになることを意識して、技術移転をしてきている。 ・通信環境の制約から、ネット上の最新情報にアクセスしたり、ファイルダウンロードができなかったり、民間企業との接触が禁止されているために、IT業界の動向が掴めなかったりするという課題は残る。

付 属 資 料 3

評価調査結果要約表（英語）

評価結果要約表(英)

Summary of the Final Evaluation

I. Outline of the Project	
Country : The Union of Myanmar	Project title : Project on ICT Human Resource Development at ICT Training Institute in the Union of Myanmar
Issue/Sector : IT	Cooperation scheme : Technical Cooperation Project
Division in charge : Economic Infrastructure Development Department	Total cost : 490 mil JPY
Period of Cooperation on	(R/D): May 23 rd 2006 (Extension):
	(F/U) :
	Partner Country's Implementing Organization : University of Computer Science, Yangon
	Supporting Organization in Japan :
Related Cooperation :	
<p>1 Background of the Project</p> <p>The Government of the Union of Myanmar has been promoting ICT and has established 25 computer universities. However, graduates from those universities have not acquired practical skills, which meet the needs of the ICT industry, as lectures at ICT universities mostly focus on academic and theoretical aspects. Therefore, it was an urgent issue to provide practical training to these new graduates. In October 2000, the Government of Myanmar requested the Government of Japan a technical cooperation project on establishing "ICT Training Institute". JICA dispatched several study teams to clarify the needs and confirm the Project framework. Based on the results of those studies, the Project started from December 2006.</p> <p>2 Project Overview</p> <p>(1) Overall Goal: High quality graduates from the training course developed at ICTTI are continuously produced each time.</p> <p>(2) Project Purpose: ICTTI conducts practice-oriented ICT training.</p> <p>(3) Outputs:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) The Project operation function is established. 2) Machinery and equipment are provided, installed, operated and maintained properly. 3) C/Ps improved the teaching skill through the implementation of the training courses in the ICT related fields. 4) Curriculum, syllabuses, and teaching materials for the courses are developed. <p>(4) Inputs (As of evaluation time)</p> <p>Japanese side : Short-term Expert: 10 Equipment: JPY 85.6 mil JPY approximately Local cost: JPY8.6mil JPY approximately Trainees received: 30</p> <p>Myanmar Side : Counterpart: 33 Land and Facilities, Utility costs</p>	
II. Evaluation Team	
Members of Evaluation Team	Mr. Hideo MIYAMOTO, Chief Representative, JICA Mr. Yoshiro Masuda, Assistant Director for Transportation and ICT Division III, Economic Infrastructure Development Department, JICA Ms. Midori OZAWA, Senior Consultant, PADECO Co., Ltd.

評価結果要約表(英)

Period of Evaluation	30/08/2009~ 12/09/2009	Type of Evaluation : Final Evaluation
III. Results of Evaluation		
1 Summary of Evaluation Results		
(1) Relevance		
The overall relevance of the Project is high. Details are as follows.		
<i>Relevance of the Project to 's Policy</i>		
The Project was design to be relevant to the Myanmar government's ICT master plan. Since then, the plan has not been revised. The Project is thus still in line with the government policy.		
<i>Relevance of the Project to the Target Group</i>		
The original target group was teaching staff of ICTTI and graduates of the ICT related universities. In Phase 2 and 3 of the Project, teaching staff of the ICT related universities became trainees in responding to the Myanmar side's request. Then, from Phase 4, the graduates of the ICT related universities are also included as the trainees. As a result, the current target group is composed of teaching staff of ICTTI, teaching staff and graduates of the ICT related universities		
C/Ps have acquired knowledge and practical skills from the Japanese experts. Based on their acquired knowledge and skills, they teach practice-oriented ICT training and have kept improving their teaching capacity as ICTTI lecturers. Thus, the Project is relevant to their needs.		
The number of applicants to ICTTI courses is five to ten times as many as the seat capacity of the ICTTI. Since most ICT companies require the graduates to obtain a certificate from an ICT training institution before applying for the positions, ICTTI issued certificate to qualified trainees from Phase 4 to support their career development. Moreover, there are cases that some of the biggest Myanmar ICT companies have recruited trainees in the occasions of attending workshop at ICTTI. Thus, the Project is relevant to the needs of the graduates of ICTTI as well as the IT Industry.		
The needs of teaching staff of the ICT related universities have not been assessed fully yet, but it is assumed that their needs are similar to those of teaching staff of ICTTI because they are also teaching staff of universities. The supervisor of computer universities, who is a Rector of UCSY as well as the Project Director of the ICTTI, has highly evaluated the contribution of the Project to staff training of computer universities. The Project is thus assumed to be relevant to their needs, too.		
<i>Relevance of the Project to Japan's Assistance Policy</i>		
The Project was formulated by following the Japanese government's Country Assistance Strategy and JICA's Country Assistance Plan for the Union of Myanmar. Since then, those policies have remained unchanged. Therefore, the Project is still relevant to Japan's assistance policy. The Project is expected to contribute to human resource development for economic structural reform in the Union of Myanmar.		
(2) Effectiveness		
Effectiveness of the Project is high although some factors might hinder the achievement of the Project Purpose.		
<i>Probability of Achieving the Project Purpose</i>		
The Project Purpose has been almost achieved. It has been realized based on the achievement of the outputs. Thus logical connection between the outputs and the Project Purpose is strong.		
<i>Factors that Might Hinder the Achievement of the Project Purpose</i>		
<ul style="list-style-type: none"> • Difficulty for lecturers to catch up with the latest technology trend and the IT industrial demand for 		

human resources.

ICTTI lecturers need to keep catching up with the latest technology trend and the change of industrial demand for engineer's skills. Although the Japanese experts support C/Ps in such activities in the Project period, the ICTTI needs to build up the system to avoid the obsolescence of technology level even after completion of the Project.

- Weak connection between the ICTTI graduates and the ICTTI

To support and follow-up graduates of ICTTI are important. With organizing alumni association and keeping in touch with graduates, the Project could get much information about training demand, job vacancies, and industrial trend.

(3) Efficiency

The efficiency of the Project is relatively high.

Dispatch of the Japanese Experts

According to questionnaire to C/Ps, most of the C/Ps felt that the dispatch of the Japanese experts had been adequate in terms of their expertise, the number of experts, the dispatch period and timing. The Japanese experts themselves also think the dispatch has been satisfactory.

Provision of Machinery and Equipment

Both of the C/Ps and the Japanese experts felt that machinery and equipment provided by the Japanese side are moderately adequate in terms of quantity and quality. Machinery and equipment were provided with some changes from the original plan. The first reason of that is change of the specification of machinery and equipment in the market. Second, to enforce attainment of the project purpose, more specifically to enhance C/Ps' practical experience and skills, JICA supported additional machinery and equipment in 2009.

Training in Japan

Participants of the training in Japan expressed that it was very effective to improve their knowledge and skills according to their training report. For instance, participants directly appreciated the advanced technologies in Japan and could present their new knowledge and skills in their classes. The Japanese experts also observed a lot of cases that the C/Ps have utilized what they have learned from training in Japan for their teaching at classes. The training in Japan provided knowledge and experience of advanced technologies that have not been penetrated in Myanmar yet but might come in the future, such as RFID¹ technology, IT for disabled people, and network infrastructure of Japanese Universities. The training also complemented technology transfer taken place in Myanmar significantly.

(4) Impact

The Project has certain positive impacts, and no negative impact was observed.

Probability of Achieving the Overall Goal

The Overall Goal of the Project, "High quality graduates from the training course developed at ICTTI are continuously produced each time", will be realized when ICTTI provides training at its full capacity continuously. Presently ICTTI can accept about 250 trainees annually. Thus, it can be said that the indicator of the Overall Goal, "the number of graduate stands at 600 people for three years after the Project finished" will be achieved.

Economic Impact

Demand for ICT engineers has been high in Myanmar. If the graduates of ICTTI start working in Myanmar ICT companies, a significant economic impact is expected. Although economic impact of this Project in Myanmar is closely related to international ICT market, to increase its economic impact, ICTTI should produce ICT engineers whose knowledge and skills meet the needs, especially

¹ Radio Frequency Identification

of Myanmar ICT industry.

Technical Impact

ICTTI has provided training to teaching staff of the ICT related universities in Myanmar. Some C/Ps regularly teach practical classes in the UCSY and other ICT related universities. It is clearly seen that practice-oriented ICT training has been gradually spread to other ICT related universities. Since Phase 4 students who are not teaching staff of ICT related universities have joined the ICTTI training courses. If they get jobs at ICT companies, positive technical impact on ICT companies will be expected as well. The tracer study of the graduates are going to be conducted soon and it may find the number of graduates who have started working in ICT companies, which will help measure impacts quantitatively.

(5) Sustainability

Sustainability of the Project is favorable at this moment. Its sustainability will be more strengthened if some measures are taken from now on.

In general, up to now GOM have strongly supported ICTTI activities and the demand for the ICTTI graduates from the IT industry as well as the government seems to be increasing according to the interviews with concerning party. This means that the value of the ICTTI will continuously be appreciated, which will support the ICTTI's self-sustainability from various aspects.

Institutional Aspects

Regarding institutional aspects, creating more systematic ways to recruit and keep efficient staffs has been one of the major issues during the course of the Project. Through lecturers' training and other supports for ICT universities, ICTTI has tried to enhance the technical capacity of ICT universities. This activity is also strongly related to the counter measure of human resource transfer at ICTTI. To admit such matter as an important Project activity, on PDM activity 1-6, "Sustainable training procedures for new lecturers are established" was added in July 2009.

According to the advancement of the ICTTI's maturity, it is presumed that the number of C/Ps, their transfer to other universities, and tasks that the C/Ps have to hold concurrently together with ones of the ICTTI would gradually change. To ensure that the ICTTI keep producing high quality graduates through practice-oriented trainings, it is expected that the management level of C/Ps keep applying appropriate plan for these matters.

It seems that information needed to make strategic future plan of the ICTTI has not yet fully been collected. Activity 4-6 "ICTTI surveys company that graduates from the training course sign on", and activity 4-10 "follow-up activities for ICTTI graduates are implemented" are planned to be carried out. It is expected that these activities are also to be implemented by the C/Ps with the support of the Japanese experts, and strategic future plan of the ICTTI will be made based on the analysis of information gathered.

Financial Aspects

As for financial aspects, GOM and GOJ have shared Project costs properly as mentioned on PDM. Regarding regular maintenance of equipment and some parts of building renovation, it has been supported by GOJ in the Project period. However, such cost for maintenance as well as upgrading existing equipment in the future is expected to be financed by GOM after the completion of the Project period.

Technical Aspects

As reported at the Mid-term evaluation, C/Ps conducted some internal projects for research and knowledge-sharing of new technology trend. But such activities were still instructed and supported by Japanese experts partially. To ensure such capacity of C/Ps, systematic activities to introduce new technologies and industrial trends into ICTTI curriculum are expected continuously.

評価結果要約表(英)

For the first step, the Project has already started to collect graduates' opinions and requests about ICTTI training in 2009. To reflect the actual situation and demand on trainings and to officially ensure that such activity will be enforced continuously, one new activity 4-10; "Follow-up activities for ICTTI graduates are implemented", was added on PDM in July 2009.

2. Factors that promoted realization of effects

(1) Factors concerning to Planning

Although it was not planned at the beginning of the project, to enhance practical knowledge and skills of C/Ps, the project introduced the development and implementation of some systems, such as equipment management system and library management system to be used for ICTTI's efficient project management. This additional activity called internal projects has greatly contributed to the enhancement of C/P's practical skills and efficient management of the project. In addition, the system developed through the internal projects was also used as an example case for the system development in the software development course.

C/Ps designed and set up the real network system of UCSY Hlaing campus building A and Hlawgar campus with the assistance of the experts. This C/P's practical experience also significantly improved C/Ps practical knowledge and skills, which eventually contributed to C/P's conducting high quality of workshop in the training courses.

(2) Factors concerning to the Implementation Process

Regular meetings with the Japanese experts and C/Ps are held every week to monitor the progress of the Project. These meetings are utilized as a platform to discuss issues and share information. Groupware and mailing lists have supplemented sharing information. In addition, that all Japanese experts and C/Ps except Project Director (Rector of UCSY) are seated in one room have made communication between them easily and smoothly. Moreover, C/P's high motivation and culture to share new knowledge among C/Ps also have accelerated the spread of Japanese experts' knowledge among C/Ps, which contributed output achievements.

3. Factors that impeded realization of effects

(1) Factors concerning to Planning

Management aspects have not been paid enough attention compared to the technology transfer aspects. As the Project Manager did not have so much experience in management, the Project should have introduced activities to strengthen the management capacity of ICTTI.

(2) Factors concerning to the Implementation Process

Myanmar society is very top-down system and plans can be suddenly changed by the orders from the Ministers level. In the Project, the target group was changed by the initiative of the Minister. This was caused due to his high interest in the Project; however, it was not easy to modify the project activities.

Due to the policy of Ministry of Science and Technology and UCSY, C/Ps' contract to the private companies and the Japanese experts' contact to other ICT related universities and private companies have been restricted. This is one of the impediments to know the technical trend as well as the needs for the human resources of ICT industry in Myanmar.

4. Conclusion

Project Purpose is going to be achieved in the course of present activity; however, following activities written in 5. Recommendations below could make the attainment of Project Purpose advanced from current pace.

5. Recommendations

Based on the evaluation results above, the Final Evaluation Team proposed the following ideas of future activities as recommendations to ensure achievements of Project Purpose. To conduct these activities, the Japanese Team suggests extending the period of the Project.

(1) Introduction of module-based curriculum at ICTTI

Since the current training course has rather long duration (22 weeks), there have been requests from private IT Industry and public organizations for shorter intensive training courses (module-based training courses). Therefore, introducing module-based training course is highly anticipated in order not only to meet various training demands but also to efficiently utilize training resources at ICTTI such as curriculum and classrooms. To implement this course, the Project need to continue activities to support training demand survey, to advice re-designing of module-based curriculum, and to conduct new technology transfer from Japanese experts. By introducing module-based training courses, the ICTTI expects to produce over 400 trainees per year and the number of graduates will increase at 1200 for three years after the Project finishes, which is double number of the overall indicator in PDM.

(2) Implement joint technical seminars by JICA experts and C/Ps

In order to establish capacity of the C/Ps to update technology trend by own initiative, it is valuable to implement technical seminars by C/Ps with the help of Japanese experts. It is encouraged that such seminars be opened to the public, since they are good opportunities to appeal C/Ps' technical level and to enhance Public Relation activity of ICTTI. It is also recommended to invite graduates of ICTTI and get training needs from them.

(3) Provide training support for ICT related universities

From the implementation stage of this Project, Myanmar side had requested JICA to combine staff training of universities and practical training to graduates of ICT universities who try to get jobs in the Myanmar ICT industry. Technically, this combination does not make contradiction in Project Purpose and Overall Goal; therefore, JICA has agreed this combination of target groups and has provided support for that: for example, to accept lecturers of universities regularly, to support network planning of campus buildings in the network workshop, and so on. However, this kind of support has another meaning in ICTTI activity itself. To enhance the technical level of lecturers and graduates of ICT related universities has the positive impact on the whole ICTTI activities, especially from the viewpoints of human resource management; these activities enable the Project to recruit new qualified substitutes of ex-C/Ps.

(4) Implement follow-up and support activities for ICTTI graduates

In Myanmar, the human network is the strongest way to recruit/be recruited to a new job vacancy. Besides, to collect needs of module-based trainings and to announce entrance information to potential applicants, relationship with graduates are strong ways. Therefore, there is an obvious reason to organize graduates as an alumni association managed by ICTTI. To keep in touch with graduates, there must be some systematic management for the graduates to keep attracting them to ICTTI activities.

6. Lessons Learned

(1) Human Resource Sustainability

Generally, JICA projects have not expected staff transfer in C/Ps. But it is sometimes difficult to keep C/Ps in one place during the Project period in the Government to Government support because any government has a regulation of staff movement. For other JICA Projects as well, the trial of building a sustainable human management system is significant.

(2) Promoting of LMS (Learning Management System)

In the ICTTI Project open source Learning Management System, "Moodle", is the core of testing, distribution of study material and student management. This system application can be said as the global standard currently; therefore, the experience of installment and fully using of "Moodle" could be the touchstone of other training projects of JICA.

付 属 資 料 4

質問表回答

Questionnaire for C/P(Five Evaluation Criteria)

1. Name		
		Response Count
		21
	<i>answered question</i>	21
	<i>skipped question</i>	0

2. Position		
		Response Count
		21
	<i>answered question</i>	21
	<i>skipped question</i>	0

3. Is equipment provided by the Project used effectively for trainings at ICTTI? If there is any issue, please describe below.			
		Response Percent	Response Count
Yes, very much		28.6%	6
Yes		71.4%	15
No		0.0%	0
Not at all		0.0%	0
		Issue	0
	<i>answered question</i>		21
	<i>skipped question</i>		0

4. Please describe the factors to PROMOTE the achievement of the project purpose, "ICTTI conducts practice-oriented ICT training". You may think factors from various aspects, such as administration, finance, human resources, policies, a trend of IT industry and IT labor market etc.

		Response Count
		17
	<i>answered question</i>	17
	<i>skipped question</i>	4

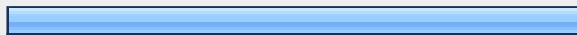

5. Please describe the factors to HAMPER the achievement of the project purpose, "ICTTI conducts practice-oriented ICT training". You may think factors from various aspects, such as administration, finance, human resources, policies, a trend of IT industry and IT labor market etc.

		Response Count
		6
	<i>answered question</i>	6
	<i>skipped question</i>	15

6. Important Assumption, "Excellent graduates of ICT related universities and colleges take an entrance examination of ICTTI." Do you think the excellent graduates of ICT related universities and colleges are willing to study at ICTTI? If there is any issue, please describe below.

		Response Percent	Response Count
Yes, very much		33.3%	7
Yes		66.7%	14
No		0.0%	0
Not at all		0.0%	0
		Issue	3
		<i>answered question</i>	21
		<i>skipped question</i>	0

7. Precondition, “Budget for ICTTI is allocated by UCSY.” Do you think UCSY allocates necessary budget for ICTTI? If there is any issue, please describe below.

		Response Percent	Response Count
Yes, very much		0.0%	0
Yes		94.7%	18
No		5.3%	1
Not at all		0.0%	0
<i>answered question</i>			19
<i>skipped question</i>			2

8. Free space You may write what you could not write on each question space above.

		Response Count
		2
<i>answered question</i>		2
<i>skipped question</i>		19

9. Do you think a) the number of Japanese experts dispatched, b) their expertise, and c) timing when they were dispatched were appropriate, neither too little nor too much, to produce expected outputs written on PDM? Please check for each item, a),b),c). If there is any issue, please describe below.

	It is appropriate very much	It is appropriate	It is not so appropriate	It is not appropriate at all	Response Count
a)	0.0% (0)	100.0% (20)	0.0% (0)	0.0% (0)	20
b)	14.3% (3)	85.7% (18)	0.0% (0)	0.0% (0)	21
c)	0.0% (0)	100.0% (21)	0.0% (0)	0.0% (0)	21
Issue					1
<i>answered question</i>					21
<i>skipped question</i>					0

10. Do you think machinery and equipment provided by the Project is appropriate, neither too little nor too much, in terms of quantity and quality to produce expected outputs written on PDM? Please check each item, quantity and quality. If there is any issue, please describe below.

	It is too much	It is much	It is appropriate	It is little	It is too little	Response Count
Quantity	4.8% (1)	9.5% (2)	85.7% (18)	0.0% (0)	0.0% (0)	21
Quality	0.0% (0)	20.0% (4)	80.0% (16)	0.0% (0)	0.0% (0)	20
Issue						2
answered question						21
skipped question						0


11. Do you think timing of provision of machinery and equipment by the project is appropriate, neither too early nor too late, to produce expected outputs written on PDM?? If there is any issue, please describe below.

	Response Percent	Response Count
It was too early	0.0%	0
It was little early.	0.0%	0
It was appropriate.	100.0%	20
It was little late.	0.0%	0
It was too late.	0.0%	0
Issue		1
answered question		20
skipped question		1

12. ***For those who participated in the training in Japan*** Do you think a) the number of lecturers of ICTTI dispatched to training in Japan, b) training contents, and c) duration of training were appropriate to produce expected outputs written on PDM? Please check for each item, a),b),c). If there is any issue, please describe below.

	It was too much	It was much	It was appropriate	It was little	It was too little	Response Count
a)	0.0% (0)	0.0% (0)	100.0% (18)	0.0% (0)	0.0% (0)	18
b)	0.0% (0)	0.0% (0)	94.4% (17)	5.6% (1)	0.0% (0)	18
c)	0.0% (0)	0.0% (0)	88.9% (16)	11.1% (2)	0.0% (0)	18
Issue						0
answered question						18
skipped question						3

13. ***For those who participated in the training in Japan*** Do you think the timing of training in Japan set for the project period is appropriate, neither too early nor too late, to produce expected outputs written on PDM? If there is any issue, please describe below.


		Response Percent	Response Count
It was too early		0.0%	0
It was little early.		0.0%	0
It was appropriate.		100.0%	18
It was little late.		0.0%	0
It was too late.		0.0%	0
Issue			1
answered question			18
skipped question			3

14. ***For those who participated in the training in Japan*** Have you utilized skills and knowledge obtained from the training in Japan?			
		Response Percent	Response Count
Yes, I have utilized them very much		5.9%	1
Yes, I have utilized them.		82.4%	14
No, I have not utilized them so much.		11.8%	2
No, I have not utilized them at all.		0.0%	0
		<i>answered question</i>	17
		<i>skipped question</i>	4

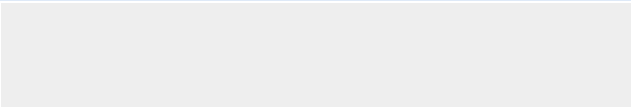
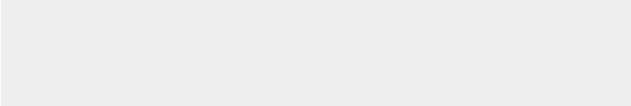
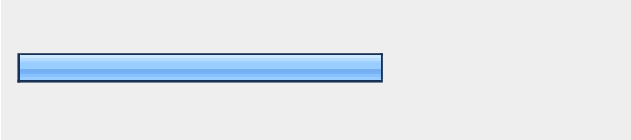
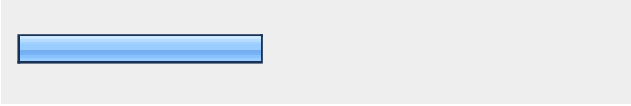
15. For those who answer “YES” for the above question, please describe examples of how you have utilized what you have learned in Japan.		
		Response Count
		15
		<i>answered question</i>
		15
		<i>skipped question</i>
		6

16. For those who answer “NO” for the above question, please describe the reason why you have not utilized what you have learned in Japan.		
		Response Count
		2
		<i>answered question</i>
		2
		<i>skipped question</i>
		19

17. Free space You may write what you could not write on each question space above.		
		Response Count
		0
	<i>answered question</i>	0
	<i>skipped question</i>	21

18. Has this project generated any POSITVE impacts, which were not expected at the beginning of the project? Impacts might be considered in terms of national policy, university policy, social attitude, administration structure, income generation, economic development, and development of IT industry and IT labor market etc. You may pick up any aspects on which this project has given any POSITIVE influence. If you select "YES", please describe what impacts you have found.			
		Response Percent	Response Count
Yes, this project has generated POSITIVE impacts very much		0.0%	0
Yes, this project has generated POSITIVE impacts		100.0%	21
No, this project has not generated POSITIVE impacts so much		0.0%	0
No, this project has not generated any POSITIVE impacts at all		0.0%	0
If you select YES, please describe POSITIVE impact that you have found			13
	<i>answered question</i>		21
	<i>skipped question</i>		0

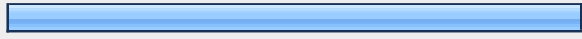

19. Has this project generated any **NEGATIVE** impacts, which were not expected at the beginning of the project? Impacts might be considered in terms of national policy, university policy, social attitude, administration structure, income generation, economic development, and development of IT industry and IT labor market development etc. You may pick up any aspects on which this project has given any **NEGATIVE** influence. If you select “**YES**”, please describe what impacts you have found.

		Response Percent	Response Count
Yes, this project has generated NEGATIVE impacts very much		0.0%	0
Yes, this project has generated NEGATIVE impacts.		0.0%	0
No, this project has not generated NEGATIVE impacts so much.		60.0%	12
No, this project has not generated any NEGATIVE impacts at all.		40.0%	8
If you select YES , please describe NEGATIVE impact that you have found			0
		answered question	20
		skipped question	1


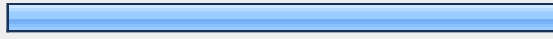
20. Free space You may write what you could not write on each question space above.

		Response Count
		0
		answered question
		0
		skipped question
		21

21. Do you think that ICTTI has obtained enough operational capacity to manage the ICTTI's activities without support from the Japanese side? If there is any issue, please describe below.

		Response Percent	Response Count
Yes, very much		0.0%	0
Yes		95.2%	20
No		4.8%	1
Not at all		0.0%	0
		Issue	1
		<i>answered question</i>	21
		<i>skipped question</i>	0

22. Do you think that the Myanmar project staff members of ICTTI have had enough motivation to manage the ICTTI's activities? If there is any issue, please describe below.

		Response Percent	Response Count
Yes, very much		9.5%	2
Yes		90.5%	19
No		0.0%	0
Not at all		0.0%	0
		Issue	0
		<i>answered question</i>	21
		<i>skipped question</i>	0

23. Do you think that the system or mechanism that experienced lecturers of ICTTI train and teach new lecturers? Please describe the reason of your judgment.

		Response Percent	Response Count
Yes, very much		4.8%	1
Yes		95.2%	20
No		0.0%	0
Not at all		0.0%	0
Reason of your judgment			6
<i>answered question</i>			21
<i>skipped question</i>			0

24. Do you think the lecturers of ICTTI have obtained the means to keep updating and upgrading their skills and knowledge by themselves even after the project finishes?

		Response Percent	Response Count
Yes, very much		0.0%	0
Yes		100.0%	21
No		0.0%	0
Not at all		0.0%	0
Reason of your judgment			7
<i>answered question</i>			21
<i>skipped question</i>			0

25. Free space You may write what you could not write on each question space above.

		Response Count
		0
<i>answered question</i>		0
<i>skipped question</i>		21

C/P質問票 評価5項目 コメント回答集

質問 番号	質問とコメント回答
4	<p>Please describe the factors to PROMOTE the achievement of the project purpose, "ICTTI conducts practiceoriented ICT training". You may think factors from various aspects, such as administration, finance, human resources, policies, a trend of IT industry and IT labor market etc.</p> <p>1. Administration 2. Finance 3. Latest reference books 4. New equipments and software tools</p> <p>1. Administration 2. Finance 3. Books 4. New Network Equipments 5. Network Infrastructure</p> <p>1. Administration 2. Finance 3. Human resources</p> <p>1. Technology transfer 2. New network equipment 3. network device configuration by ourselves 4. router configuration with gns3 simulator by trainees 5. Linux server configuration</p> <p>1. New Technologies from Japan and study visit to Japan 2. Mainly, supported equipments to ICTTI 3. Finance 4. Human resources 5. Policies 6. Trend of IT industry and IT labor market</p> <p>Administrator can handle their project team. CPs can train their student very well. Equipments can be maintained very well. Syllabus need to be up to dated.</p> <p>The qualified graduated personal are produced -Open source software development experiences are achieved by conducting ICT training -Advanced software technology are conducted by ICT training</p> <p>As SW development course, ICTTI can give knowledge and experience of Team software development to the graduate of ICTTI, which is very rare to get such kind of knowledge from other training institute. ICTTI graduates have enough confidence, experience, and knowledge to work in IT industry. And also IT industry welcome to our ICTTI graduates.</p> <p>Workshop is very useful to students like actual project. Up to date syllabuses Well equipment</p> <p>To properly maintain training equipments</p> <p>It will better to add one type of new technologies in courses at each phase.</p> <p>A trend of IT industry and IT labor marke</p>
5	<p>Please describe the factors to HAMPER the achievement of the project purpose, "ICTTI conducts practiceoriented ICT training". You may think factors from various aspects, such as administration, finance, human resources, policies, a trend of IT industry and IT labor market etc.</p> <p>Low quality in lecture Students are not interested in syllabus. Instructor change frequently</p> <p>Even though advanced software technologies are conducted, open source software development is less popular in IT labor market.</p> <p>While they join ICTTI, they have a chance to study the new technologies practically. After graduate from ICTTI, there is lacking for the trainees's job seeking. If there is offshore outsourcing between Myanmar and Japan, it is better.</p> <p>A trend of IT industry and IT labor market is not so suitable with the knowledge and experience of ICTTI graduates. In Myanmar, IT industry more demand only for small web application development such as PHP, VB scripts, Java scripts, etc. So it is difficult to find job for ICTTI graduates.</p>
6	<p>Important Assumption, "Excellent graduates of ICT related universities and colleges take an entrance examination of ICTTI." Do you think the excellent graduates of ICT related universities and colleges are willing to study at ICTTI? If there is any issue, please describe below.</p> <p>Demands for attending ICTTIs are so many After attending these training courses, they get more confident and competent than earlier according their says.</p> <p>The techniques lectured in ICTTI would not gained in other places. ICTTI training courses are practice-oriented while other universities or company training or courses are mostly in theory-oriented.</p> <p>Graduates willing to study at ICTTI: they need International recognized certificate and need practical approach in IT related knowledge</p>
8	<p>Free space You may write what you could not write on each question space above.</p> <p>About budget, I don't know it.</p>

9	Do you think a) the number of Japanese experts dispatched, b) their expertise, and c) timing when they were dispatched were appropriate, neither too little nor too much, to produce expected outputs written on PDM? Please check for each item, a),b),c). If there is any issue, please describe below.
	We get many knowledge from our experts.
10	Do you think machinery and equipment provided by the Project is appropriate, neither too little nor too much, in terms of quantity and quality to produce expected outputs written on PDM? Please check each item, quantity and quality. If there is any issue, please describe below.
	Network Device such as switch and router are Cisco and Dlink brand. It is very nice.
11	Do you think timing of provision of machinery and equipment by the project is appropriate, neither too early nor too late, to produce expected outputs written on PDM?? If there is any issue, please describe below.
	It was appropriate.
13	***For those who participated in the training in Japan*** Do you think the timing of training in Japan set for the project period is appropriate, neither too early nor too late, to produce expected outputs written on PDM? If there is any issue, please describe below.
	It was a little bit late for some CPs. In my idea, if we can go early, we, CPs, can more utilize the knowledge getting from Japan in the project period.
15	For those who answer "YES" for the above question, please describe examples of how you have utilized what you have learned in Japan.
	I have learned improvement of Japanese company and also studied lecture in KCG. I can utilize these knowledge in ICTTI and UCSY.
	I can share knowledge and experience from Japan Training to the students when I am teaching and training in the workshop. I also observed that the actual needs for Japan Software Industry, so I can share such kind of information to the ICTTI graduates.
	I share some knowledge to the students. I utilize the implementation of project and apply the lecture based on the knowledge.
	I have utilized knowledge from real IS business and gain expertise training from kcg.edu.
	From the knowledge of study in Japan, I applied in teaching program and shared the knowledge and experience to our ICT training students to improve their ability. Moreover, I guided to the master candidates with the idea of new technologies got from training experience.
	I have learned about web layout and Design and Symfony framework with java in Japan. I have utilized that in some project and thesis.
	After visiting to the Data Center of Large Company in Japan, we can supervise to develop and implement International Standard Network Infrastructure in Hlaing Campus and Hlawgar Campus.
	We had learnt cisco networking training in Malaysia. Apply this knowledge and practical experience in teaching and real cisco device configuration.
	We can apply in network communication such as cabling, security, maintaining.
	Making knowledge sharing Can support teaching skill to improve in classroom Can get good experience when making practical approach
	On the industries visit, I studied new technologies and it supports me in my lectures.
	We got much knowledge during study visit to Japan. Especially, we could observe nice security protection for critical places and devices. Thus, we could distribute again these knowledge and experiences to our students.
	We have established seminars and workshops to share the knowledge gained from Japan. Some of the teaching methods have been changed towards to practical approach.
	We have learned how other training institutions in Japan are providing their trainees in term of training content materials, facilities provided, teaching style and evaluation approaches and so on.
16	For those who answer "NO" for the above question, please describe the reason why you have not utilized what you have learned in Japan.
	The answer is "No" because I have not been to Japan for training yet so I can't tell exactly. If I have a change to go Japan, I can tell "How to get skills and knowledge obtained from the training".

18	<p>Has this project generated any POSITVE impacts, which were not expected at the beginning of the project? Impacts might be considered in terms of national policy, university policy, social attitude, administration structure, income generation, economic development, and development of IT industry and IT labor market etc. You may pick up any aspects on which this project has given any POSITIVE influence. If you select "YES", please describe what impacts you have found.</p>
	Development of IT industry and IT labor market.
	From my opinion, it is the first step of practical trend in development of IT industry.
	I think this project give impact in development of IT industry and IT labor market. If we can train students very well, they can utilize their knowledge and employ IT company.
	Administration structure Development of IT industry and IT labor market
	1. Gaining new technologies 2. Gaining practical skills and knowledge
	1. Flexibility of relation and communication between computer companies and UCSY.
	improved the ICT skill and knowledge quality of trainees are improved
	Whole campus network connection! Especially, WiMax project. I got the experiences on CISCO devices.
	For the development of IT industry, this project has generated positive impact that ICTTI graduates can use directly in software development without no more training in their company. And ICTTI graduates have enough experience not only in programming, but also in the whole software development methodology that is very rare to get in other training institutes.
	We have gained alot of knowledge and experience during this project periods.
	ICTTI project produces good quality graduated person who they have practical-oriented experiences
21	<p>Do you think that ICTTI has obtained enough operational capacity to manage the ICTTI's activities without support from the Japanese side? If there is any issue, please describe below.</p>
	We can not depend on other organization for a long period. We have to try to sustain on our own ability in future.
23	<p>Do you think that the system or mechanism that experienced lecturers of ICTTI train and teach new lecturers? Please describe the reason of your judgment.</p>
	If the lectures had already attended to ICTTI training, the experienced lectures can train and teach them.
	Because ICTTI lecturers are government staff, sometimes they need to move to other project or university that more suitable with them. So, experienced ICTTI lecturers should train and teach new lecturers in case of they cannot work anymore.
	It is very beneficial to do the practical configuration for LAN network and how to manage the operation of the educational training equipments. The skill and experience getting from this ICTTI train will help me to improve the career of my teaching.
	Yes, experienced lecturers of ICTTI can train and teach new lecturers. Because our ICTTI's lecturers have already produced high quality graduates of IT related universities. They may be new lecturers for ICTTI.
	It is very beneficial to do the practical configuration for LAN network and how to manage the operation of the educational training equipments. The skill and experience getting from this ICTTI train will help me to improve the career of my teaching.
	Making knowledge sharing
24	<p>Do you think the lecturers of ICTTI have obtained the means to keep updating and upgrading their skills and knowledge by themselves even after the project finishes?</p>
	ICTTI lecturers can upgrading and updating their skills and knowledge by themselves. But it is difficult if they don't have time to study because most of CPs are very busy with the project tasks and other jobs of university.
	After the project finishes, they will achieve the skill and knowledge in comparison with practice-based teaching and training methods.
	Can learn continuously by self based on the previous knowledge.
	Even after the project finished, the ICTTI lecturers have experiences for revising courses and issues for learning courses from student. So, they try to keep updating and upgrading their skills and knowledge by themselves even after the project finishes.


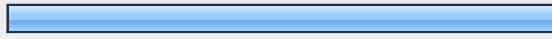
Yes, we can update and upgrade our skills and knowledge by themselves after every phase finishes. We get teaching skill, management skill in every phase. So we can like this after the project finishes.

If I won't be busy with other tasks (chores), ...

Questionnaire for C/P(Achievement and Process)

1. Name		
		Response Count
		21
	<i>answered question</i>	21
	<i>skipped question</i>	0

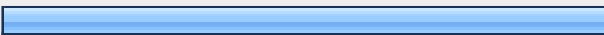
2. Position		
		Response Count
		21
	<i>answered question</i>	21
	<i>skipped question</i>	0

3. Is there any project activity which has not been implemented or implemented behind the schedule? Activities mean here are items written in activities' column on PDM. However, you may also mention some sub-activities deprived from the activities on PDM, if you would like to.			
		Response Percent	Response Count
Yes		9.5%	2
No		90.5%	19
Other (please specify)			1
		<i>answered question</i>	21
		<i>skipped question</i>	0

4. If you answer “YES” for the above question, please provide details: 1) Whether it has not been implemented or implemented behind the schedule 2) Contents of the activity 3) Reason of not being implemented or being behind the schedule. 4) Effects on the output planned (Please see PDM’s Output column)
 Example 1) Implemented behind the schedule 2) Some internal projects 3) Lecturers are too busy teaching to do internal projects 4) Not so much effects on the output planned

		Response Count
		0
	<i>answered question</i>	0
	<i>skipped question</i>	21

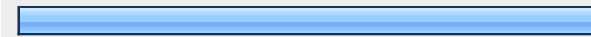

5. Output 1 “The project operation function is established.” Output indicator 1-2 Do you think that the project is currently monitored on regular basis by Myanmar project staff members like you, not Japanese experts?

		Response Percent	Response Count
Very well monitored		0.0%	0
Monitored		100.0%	21
Not so well monitored		0.0%	0
Not monitored		0.0%	0
		<i>answered question</i>	21
		<i>skipped question</i>	0

6. If you select “Very well monitored”, or “Monitored” for the question above, please describe how it is well monitored.

		Response Count
		16
	<i>answered question</i>	16
	<i>skipped question</i>	5

7. If you select “Not so well monitored” or “Not monitored”for the question above, please describe the reason.		
		Response Count
		0
	<i>answered question</i>	0
	<i>skipped question</i>	21

8. Output 2 ”Machinery and equipment are provided, installed, operated and maintained properly.” Output indicator 2-1 Are the machinery and equipment provided operated and maintained properly? If you select “Not so properly operated or maintained” or “Not properly operated or maintained at all”, please describe which machinery and equipment are not operated and maintained properly and its reason.			
		Response Percent	Response Count
Very properly operated and maintained		0.0%	0
Operated and maintained		95.2%	20
Not so properly operated or maintained		4.8%	1
Not properly operated or maintained at all		0.0%	0
List of machinery and equipment which are not operated and maintained properly and its reason			2
		<i>answered question</i>	21
		<i>skipped question</i>	0

9. Output indicator 2-2 Is Local Area Network (LAN) operated and maintained according to the system management and maintenance procedures? If you select “Not so properly operated or maintained” or “Not properly operated or maintained at all”, please describe its reason.

		Response Percent	Response Count
Very properly operated and maintained		20.0%	4
Operated and maintained		80.0%	16
Not so properly operated or maintained		0.0%	0
Not properly operated or maintained at all		0.0%	0
The reason of your judgment			1
			answered question
			20
			skipped question
			1

10. Output indicator 2-3 Is the installed software updated and maintained on regular basis? If you select “Not so regularly updated or maintained” or “Not regularly updated or maintained at all”, please describe the current situation and its reason.

		Response Percent	Response Count
Very regularly updated and maintained		9.5%	2
Updated and maintained		90.5%	19
Not so regularly updated or maintained		0.0%	0
Not regularly updated or maintained at all		0.0%	0
The current situation and its reason			0
			answered question
			21
			skipped question
			0

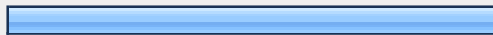
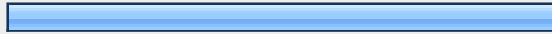

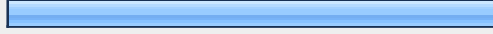
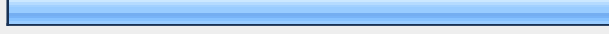
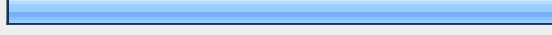
11. Output3 “C/Ps improve teaching skill through the implementation of the training course in the ICT related Do you think that you have obtained enough teaching skills to teach ICTTI courses? If you select “Not obtained so much” or “Not obtained at all”, please describe the reason of your judgment and skills that you think you need to enhance and its reason.

		Response Percent	Response Count
Yes, I have obtained very much		15.8%	3
Yes, I have obtained		84.2%	16
No, I have not obtained so much		0.0%	0
No, I have not obtained at all.		0.0%	0
The reason of your judgment and teaching skills that you think you need to enhance and its reason			2
			<i>answered question</i>
			19
			<i>skipped question</i>
			2


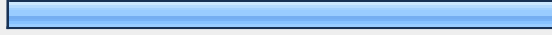
12. To enhance practical skills and knowledge of lecturers in Software Development Group, they have developed applications that are actually used at their universities, for example, equipment management system and customization of Moodle. Do you think this kind of practical experience is useful to enhance their (or your) skills and knowledge? Please describe the reason of your judgment, too.

		Response Percent	Response Count
Yes, it is very useful		11.1%	2
Yes, it is useful		88.9%	16
No, it is not so useful		0.0%	0
No, it is not useful at all		0.0%	0
The reason of your judgment			9
			<i>answered question</i>
			18
			<i>skipped question</i>
			3

13. Output4 “Curriculum, syllabuses, and teaching materials for the courses are developed, and modified as needed.” Output indicator 4-2 Please check all items below that you think that lecturers of ICTTI can modify by themselves as needed.

		Response Percent	Response Count
Curriculuml		81.0%	17
Syllabuses		90.5%	19
Textbooks		100.0%	21
Training materials		81.0%	17
Final examination		100.0%	21
Entrance examination		90.5%	19
		<i>answered question</i>	21
		<i>skipped question</i>	0

14. Do you find any issues to modify items above as needed? If yes, please indicate item name, such as curriculum, syllabuses, textbooks, training materials, final examination and entrance examination, and describe issues.

		Response Percent	Response Count
Yes		9.5%	2
No		90.5%	19
If yes, please describe issue. For example, ((Item name)): Curriculum ((Issue)): Because it is not allowed for lecturers to meet personnel of IT industry, it is difficult to know the real needs of training contents from a point of view of IT industry labor market.			3
		<i>answered question</i>	21
		<i>skipped question</i>	0

15. To enhance practical skills and knowledge of lecturers of Network Technology Group, they have developed computer network of a main building at Hlaing Campus and designed WiMAX network between Hlaing campus and Hlawgar campus. Do you think this kind of practical experience is useful to enhance their (or your) skills and knowledge? Please describe the reason of your judgment, too.

		Response Percent	Response Count
Yes, it is very useful		50.0%	9
Yes, it is useful		50.0%	9
No, it is not so useful		0.0%	0
No, it is not useful at all		0.0%	0
The reason of your judgment			6
answered question			18
skipped question			3

16. Free space You may write what you could not write on each question space above.

		Response Count
		0
answered question		0
skipped question		21

17. Do you think technology transfer activities by the Japanese experts are adequate? If there is any issue, please describe below.

		Response Percent	Response Count
Yes, very much		23.8%	5
Yes		76.2%	16
No		0.0%	0
Not at all		0.0%	0
Issue			1
answered question			21
skipped question			0

18. Do you have adequate communication with the Japanese experts? If there is any issue, please describe below.

		Response Percent	Response Count
Yes, very much		19.0%	4
Yes		81.0%	17
No		0.0%	0
Not at all		0.0%	0
		Issue	1
		<i>answered question</i>	21
		<i>skipped question</i>	0

19. Do you think the Myanmar side implements project activities proactively? If there is any issue, please describe below.

		Response Percent	Response Count
Yes, very much		4.8%	1
Yes		95.2%	20
No		0.0%	0
Not at all		0.0%	0
		Issue	0
		<i>answered question</i>	21
		<i>skipped question</i>	0

20. Free space You may write what you could not write on each question space above.

		Response Count
		0
		<i>answered question</i>
		0
		<i>skipped question</i>
		21

C/P質問票 実績と実施プロセス コメント回答集

質問 番号	質問とコメント回答
3	<p>Is there any project activity which has not been implemented or implemented behind the schedule? Activities mean here are items written in activities' column on PDM. However, you may also mention some subactivities deprived from the activities on PDM, if you would like to. Other (please specify)</p> <p>1) has not been implemented. 2) ICTTI surveys company that graduates from the training course sign on. 3) Most of ICTTI ex-trainees are not working in software company. Some are working but it is difficult to contact with them. 4) Not so much effects on the output planned.</p>
6	<p>Output 1 "The project operation function is established." Output indicator 1-2 Do you think that the project is currently monitored on regular basis by Myanmar project staff members like you, not Japanese experts? If you select "Very well monitored", or "Monitored"for the question above, please describe how it is well monitored.</p> <p>1. By checking the improvement of Textbook Contents. 2. By checking the improvement of using Updated Software during lecture. 3. By checking the improvement of network infrastructure between and ICTTI and Building A. 4. By checking the improvement of student attention on ICTTI Training during lecture period. 5. By checking the improvement of student attention on ICTTI Training during workshop period.</p> <p>Most of the text books are up to date Students can do their assignment regularly</p> <p>By making interview with some trainees who are attending the courses and some who have completed the courses.</p> <p>By doing regular weekly meeting, CP meeting, CP and Experts meeting</p> <p>Now, almost all of the task such as Final Examination, Entrance Examination, Training Materials are prepared by Myanmar project staff and get the agreement from Japanese Experts on that preparation. But in some tasks such as preparation for new text books, Myanmar staffs ask the guideline from Japanese Experts.</p> <p>Myanmar project staff members can monitor the project on regular basis. Members can plan how to establish that project regularly and how to improve the course and teaching skills.</p>
8	<p>List of machinery and equipment which are not operated and maintained properly and its reason</p> <p>Especially, some UPSs in class rooms are still trouble even though they made maintenance regularly because of unstable voltage.</p>
11	<p>Output3 "C/Ps improve teaching skill through the implementation of the training course in the ICT related fields. Do you think that you have obtained enough teaching skills to teach ICTTI courses? If you select "Not obtained so much" or "Not obtained at all", please describe the reason of your judgment and skills that you think you need to enhance and its reason.</p> <p>I get enough teaching skills to teach ICTTI courses because our teaching style is practice-oriented. So we get many experience and troubleshooting steps in phase by phase during traning. Now we have confidence for teaching.</p>
12	<p>To enhance practical skills and knowledge of lecturers in Software Development Group, they have developed applications that are actually used at their universities, for example, equipment management system and customization of Moodle. Do you think this kind of practical experience is useful to enhance their (or your) skills and knowledge? Please describe the reason of your judgment, too.</p> <p>Enhance experiences of real development project Give experiences of customizing open source software</p>

C/P質問票 実績と実施プロセス コメント回答集

	<p>I strongly recommend using this practical skill in all our universities. Those can improving practical skills and saving time to create course. I can persuade the students by applying Moodle Other practical applications like MySQL and Gantt chart after teaching project Management and DBMS Theorey in our universities.</p>
	<p>By implementing such useful system in university, ICTTI lecturers can get real experience for developing real world software development.</p>
	<p>This kind of practical experience will provide us more convenience in teaching and we can help students in workshop by sharing our experience.</p>
	<p>1. Moodle is used for Entrance Examination, Workshop Tasks Sumission, Uploading Course Textbook, Student Attendance and Examination. So it is very useful. 2. Equipment management system is very useful for checking the status of Equipments in ICTTI, Building A and Hlawgar Campus.</p>
	<p>By having these practical skills and knoledge, the lecturers can develope respective application softwares for the universities.</p>
	<p>Developing new computer network in Hlawgar, computer network of a main building at Hlaing Campus and WiMAX network between Hlaing campus and Hlawgar campus makes us of skills and knowledge so much.</p>
14	<p>Do you find any issues to modify items above as needed? If yes, please indicate item name, such as curriculum, syllabuses, textbooks, training materials, final examination and entrance examination, and describe issues. If yes, please describe issue. For example, ((Item name)): Curriculum ((Issue)): Because it is not allowed for lecturers to meet personnel of IT industry, it is difficult to know the real needs of training contents from a point of view of IT industry labor market.</p>
	<p>Preparation for all items for short term course (2 weeks or 1 months) textbooks</p>
	<p>Up to now it is no need to modify these items, but the IT field is emerging too fast, so it will need to modify in near future. If we have to handle the Training Center by ourselves, it will be a must to modify these items by ourselves according to the changing of IT.</p>
15	<p>To enhance practical skills and knowledge of lecturers of Network Technology Group, they have developed computer network of a main building at Hlaing Campus and designed WiMAX network between Hlaing campus and Hlawgar campus. Do you think this kind of practical experience is useful to enhance their (or your) skills and knowledge? Please describe the reason of your judgment, too.</p>
	<p>This kind of practical experience can help me in order to realize how to develop and manage a network infrastructure in addition to the WiMAX technology.</p>
	<p>They gained practical experience in developing and designing the WiMAX. So they can work with confidence in their work.</p>
	<p>This is practical skills for Network Counterparts. We got a lot of practical knowledge for developing the network infrastructure for Building A and Hlawgar Campus. Installation and configuration on new network devices for Building A support us to get more practical skills. WiMax network is still developing between Hlaing Campus and Hlawgar Campus. I believed that WiMax communication and connection will give us wide range of knowledge.</p>
17	<p>Do you think technology transfer activities by the Japanese experts are adequate? If there is any issue, please describe below.</p>
	<p>The teaching staff from Computer Universities who have attended ICTTI are now sharing the technology and knowledge to the students at their respective universities.</p>
19	<p>Do you think the Myanmar side implements project activities proactively? If there is any issue, please describe below.</p>
	<p>The experts from ICTTI during the meetins and officials from Japan during the evaluation periods.</p>

専門家用（評価 5 項目）

1. お名前		
		Response Count
		10
	<i>answered question</i>	10
	<i>skipped question</i>	0

2. ご担当		
		Response Count
		10
	<i>answered question</i>	10
	<i>skipped question</i>	0

3. もし差支えなければ、回答について照会する時のためにメールアドレスを入力いただけますでしょうか。		
		Response Count
		9
	<i>answered question</i>	9
	<i>skipped question</i>	1

4. 供与された機材はICTTIのトレーニングに有効活用されていますか。もし課題がある場合は併せてご記入下さい。

		Response Percent	Response Count
充分活用されている		40.0%	4
活用されている		60.0%	6
余り活用されていない		0.0%	0
全然活用されていない		0.0%	0
課題がある場合はご記入下さい			6
answered question			10
skipped question			0

5. プロジェクト目標「ICTTIが演習中心のICT訓練を実施できるようになる」の達成へ貢献した要因があれば、ご記入下さい。（例えば、組織体制面、財政面、人的資源面、政策面、IT市場やIT労働市場面等、多方面から考えてみて下さい。）

		Response Count
		9
answered question		9
skipped question		1

6. プロジェクト目標「ICTTIが演習中心のICT訓練を実施できるようになる」の達成を阻害した要因があれば、ご記入下さい。（例えば、組織体制面、財政面、人的資源面、政策面、IT市場やIT労働市場面等、多方面から考えてみて下さい。）

		Response Count
		6
answered question		6
skipped question		4

7. 自由記入欄です。			Response Count
			0
		<i>answered question</i>	0
		<i>skipped question</i>	10

8. 専門家の数、専門性、派遣時期は適切でしたか。課題があった場合は、どの項目について（数、専門性、派遣時期、その他）、どのような理由からそう判断されたのかお答え下さい。			Response Percent	Response Count
大変適切であった			10.0%	1
適切であった			60.0%	6
余り適切でなかった			30.0%	3
全く適切でなかった			0.0%	0
課題がある場合はご記入下さい				5
		<i>answered question</i>		10
		<i>skipped question</i>		0

9. 供与機材の種類と量は過不足なかったでしょうか。「丁度良かった」以外を選択された場合は、どの項目（種類、量、その他）について、どのような理由からそう判断されたのかお答え下さい。			Response Percent	Response Count
多すぎた			0.0%	0
多少多すぎた			14.3%	1
丁度良かった			71.4%	5
多少少なかった			14.3%	1
少なすぎた			0.0%	0
「丁度良かった」以外の場合、その理由				2
		<i>answered question</i>		7
		<i>skipped question</i>		3

10. 供与機材の投入タイミングは適切でしたか。「余り適切でなかった」「全く適切でなかった」を選択された場合、その理由も併せてお答え下さい。

		Response Percent	Response Count
非常に適切であった		0.0%	0
適切であった		100.0%	7
余り適切でなかった		0.0%	0
全く適切でなかった		0.0%	0
「余り適切でなかった」「全く適切でなかった」を選択された場合、その理由			1
<i>answered question</i>			7
<i>skipped question</i>			3

11. 本邦研修の派遣人数、研修内容、期間に過不足はなかったでしょうか。「丁度良かった」以外を選択された場合は、どの項目（人数、内容、期間、その他）について、どのような理由からそう判断されたのか、お答え下さい。

		Response Percent	Response Count
多すぎた		0.0%	0
多少多すぎた		0.0%	0
丁度良かった		87.5%	7
多少少なかった		12.5%	1
少なすぎた		0.0%	0
「丁度良かった」以外の場合、その理由			1
<i>answered question</i>			8
<i>skipped question</i>			2

12. 本邦研修の時期は、プロジェクト全体工程から見て適切でしたか。「余り適切でなかった」「全く適切でなかった」を選択された場合、その理由も併せてお答え下さい。

		Response Percent	Response Count
非常に適切であった		25.0%	2
適切であった		75.0%	6
余り適切でなかった		0.0%	0
全く適切でなかった		0.0%	0
「余り適切でなかった」「全く適切でなかった」を選択された場合、その理由			0
<i>answered question</i>			8
<i>skipped question</i>			2

13. 本邦研修の成果をC/Pは業務で活用していますか。理由は次質問にてお伺いします。

		Response Percent	Response Count
非常に活用している		28.6%	2
活用している		71.4%	5
余り活用していない		0.0%	0
全く活用していない		0.0%	0
<i>answered question</i>			7
<i>skipped question</i>			3

14. 上記で「非常に活用している」「活用している」を選択された場合、その具体例を記入して下さい。

		Response Count
		6
<i>answered question</i>		6
<i>skipped question</i>		4

15. 上記で「余り活用していない」「全く活用していない」を選択された方へ。その原因は何だとお考えになりますか。		
		Response Count
		0
	<i>answered question</i>	0
	<i>skipped question</i>	10

16. ミャンマー側が負担するプロジェクト運営費は確保されていますか。もし課題があれば併せてご記入下さい。			
		Response Percent	Response Count
充分確保されている		0.0%	0
確保されている		80.0%	4
余り確保されていない		20.0%	1
全く確保されていない		0.0%	0
もし課題があればご記入下さい			2
		<i>answered question</i>	5
		<i>skipped question</i>	5

17. 自由記入欄です。		
		Response Count
		0
	<i>answered question</i>	0
	<i>skipped question</i>	10

18. C/Pの組織運営能力は、プロジェクト終了後にICTTIを彼らで運営してゆくのに充分とお考えでしょうか。もし課題があれば併せてご記入下さい。

		Response Percent	Response Count
非常に充分である		10.0%	1
充分である		60.0%	6
余り充分でない		30.0%	3
全く充分でない		0.0%	0
課題がある場合はご記入下さい			5
answered question			10
skipped question			0

19. C/Pのモチベーションは、プロジェクト終了後にICTTIを彼らで運営してゆくのに充分高いとお考えでしょうか。もし課題があれば併せてご記入下さい。

		Response Percent	Response Count
非常に高い		30.0%	3
高い		60.0%	6
余り高くない		10.0%	1
全く高くない		0.0%	0
課題がある場合はご記入下さい			3
answered question			10
skipped question			0

20. 経験のあるC/Pが、新C/Pを育成する体制は確立されていると思われますか。そのように判断される理由も併せてご記入下さい。

		Response Percent	Response Count
よく確立されている		20.0%	2
確立されている		70.0%	7
余り確立されていない		10.0%	1
全く確立されていない		0.0%	0
そう判断される理由			9
		answered question	10
		skipped question	0

21. C/PはICTTI教官として必要な知識・技術を更新し続けてゆく手立てを身につけていると思いますか。そう判断される理由も併せてご記入下さい。

		Response Percent	Response Count
よく身につけている		0.0%	0
身につけている		100.0%	9
余り身につけていない		0.0%	0
全く身につけていない		0.0%	0
そう判断される理由			9
		answered question	9
		skipped question	1

22. 自由記入欄です。

		Response Count
		1
		answered question
		skipped question
		9

専門家質問票 評価5項目 コメント回答集

質問番号	質問とコメント内容
4	<p>供与された機材はICTTIのトレーニングに有効活用されていますか。もし課題がある場合は併せてご記入下さい。</p> <p>教室のLAN, PCの設置、ケーブルの配線はよく考えられて、整っていると思う。しかし何個かのD-link-Wailess アクセスポイントが正しく動作していないように思う。</p> <p>活用されていると思われるが、時折発生する停電についての対処を熟慮すべきと思われる。</p> <p>教室のLAN環境、PC環境、は整備され、活用されていると感じた。</p> <p>ネットワークコースでは生徒一人に2台のPCが与えられ、多くの演習を含んだカリキュラムにより、実践的なコースになっていると考えられる。</p> <p>WiMAXの技術移転では機材はないので、無回答とします。C/Pトレーニングにて使用した教室はプロジェクターやエアコン、ホワイトボード、音響機器なども整備されていたため、望まれた環境であった。</p> <p>調達ペースとボリュームが案件後半になって上がった一方で、NW専門家の渡航人月はほぼ据え置きなので、結果的にC/Pが自習的にコンフィグを行うことになっています。が、それにも限界があるようで、どうやって次のNW専門家の渡航の間に必要な指導を完結させるかが、今～来月の課題となっています。</p>
5	<p>プロジェクト目標「ICTTIが演習中心のICT訓練を実施できるようになる」の達成へ貢献した要因があれば、ご記入下さい。(例えば、組織体制面、財政面、人的資源面、政策面、IT市場やIT労働市場面等、多方面から考えてみて下さい。)</p> <p>財政面: 生徒一人に一台の演習用PC、スイッチ、NIC等々が整備されており、実践にそった演習がやりやすい 人的資源面: NW, SWコース夫々10人以上ものC/Pが配備されいる。生徒は演習を行っていく上で、担当C/Pが不在であっても、ほかのC/Pからサポートを受けられる。</p> <p>C/P自ら机上理論だけではなく、実際に実機を使用して稼働状況をテストする重要性を認識したこと、また少なくとも一人1台のマシンを演習で使用できる環境が、演習中心の訓練を可能にしていると思う。</p> <p>ワークショップで実務レベルの課題を与えたこと C/Pの勤勉さ(残業を厭わない)</p> <p>人的資源面(C/Pの高い適応性、高いモチベーション)</p> <p>PMコースはミャンマー側から強い要望のあった科目だが、こういった分野の単発科目の開講事例は恐らく初めてである。実習を通してUCSスタッフ・C/Pのキャパシティ・ビルディングを行ったという点では、ミャンマー側のニーズには応えられており、プロジェクト目標にも一定の寄与はしていると言える。ただ、今フェイズのカリキュラムは教員を相手にしたプロトタイプの扱いなので、生徒の募集条件(=民間での業務経験、知識など)を考慮して、今後カリキュラムの再設計を行うことで、プロジェクト目標への到達を早めていくことが重要である。</p> <p>本案件の活動自体がプロジェクト目標のようなものなので、貢献した要因というのは挙げにくいです。敢えていえば、色々制約があるにせよC/P側の協力姿勢が同じ国の他案件よりは強いこと、JICA本部が追加調達などタイミングよく投入の見直しをしてきたことが挙げられると思います。</p> <p>現時点ではまだPTPサービスが開始されていないため、なんともいえないが、WiMAXを利用したキャンパス間ネットワークの構築が実現され、サービスが開始されれば、ICTTIの機能として確立・強化され、キャンパス間ネットワークキングにおいてネットワークインフラとして大きな役割を果たすはず。</p> <p>WiMAXのWSを通じて、WiMAXの技術を具体的に実践的な形で、また、無線通信の基礎及びIPネットワークについても伝えることができた。ICTTIの学生にWiMAX無線技術を通し、新時代の無線技術スキルが追加されることが期待されると同時に今後迎えるNGN時代にも十分対応できる無線知識獲得のヒントになることも期待できる。</p> <p>WiMAXのWSを通じて、無線通信の基礎からOFDMを使った高密度大容量無線通信無の仕組みまでを伝えることが出来たので、今後のICTTIのICT訓練に無線通信、というカテゴリが追加されることが期待され、ICTTI卒業生が無線を含め多様化するネットワーク技術への対応に遅れることなくIT市場で活躍することが期待できる。</p>
6	<p>プロジェクト目標「ICTTIが演習中心のICT訓練を実施できるようになる」の達成を阻害した要因があれば、ご記入下さい。(例えば、組織体制面、財政面、人的資源面、政策面、IT市場やIT労働市場面等、多方面から考えてみて下さい。)</p> <p>NWコースにはCiscoルーター、スイッチを取り扱うSubjectがありません。財政面で、演習用機材を取り揃えるのは難が思ったと思います。しかしながら、中規模以上のネットワークの現場では、Cisco製品を多々利用しており設定知識は必須となります。これは今後の課題ではないでしょうか？</p> <p>CPの他業務へのアサイン、出張などで、CPに対する技術移転が充分に行えない時期があった。</p>

専門家質問票 評価5項目 コメント回答集

	<p>ミャンマー政府内の政策や、そのプロジェクトへの影響が見えにくい(外国人には情報がほとんど伝達されない)</p> <p>UCSY、MOST組織体制面(C/Pを別業務兼務に多々アサイン)</p> <p>民間との関係を大学はもっと密にすべきなのですが、これが中々難しいです。今後も課題になると思います。</p>
8	<p>専門家の数、専門性、派遣時期は適切でしたか。課題があった場合は、どの項目について(数、専門性、派遣時期、その他)、どのような理由からそう判断されたのかお答え下さい。</p> <p>ミャンマー側の契約スキームの変更等の理由で着工が遅れていることがわかっているにもかかわらず、派遣時期の調整ができなかったため、竣工前にNWの専門家が帰国せざるを得なかった。C/PIに対しては工事立会いの方法、確認試験の方法等を技術移転して実施させることとした。今後の課題としたい。</p> <p>WIMAXの通信設備を構築し、既存のネットワークと接続できることを確認するまでのことを実施したかったが、ベンダーとの交渉に時間がかかり、期間内に確認するに至らなかった。</p> <p>派遣時期については、ミャンマー側のC/Pや業者側の都合によってサービス構築のための工期に合わせる事ができなかった。JICAの短期専門家派遣スキームでは、工期の変更などに合わせて渡航回数の増加やMMの増加などに即座に対応できないことが課題として残る。</p> <p>前述のとおり、NW専門家の派遣日数がタイトになることは、案件当初予想できませんでした。</p> <p>ソフトウェア・ワークショップと併行して実施されたPMコースの実習期間中に、PM専門家が全く不在となり、実践時の対応を全く指導できなかったのは残念であるし、派遣期間のプランニングに問題があると感じた。</p>
9	<p>供与機材の種類と量は過不足なかったでしょうか。「丁度良かった」以外を選択された場合は、どの項目(種類、量、その他)について、どのような理由からそう判断されたのかお答え下さい。</p> <p>少なくともソフトウェアコースで使用する物については、オープンソースだけではなく商用ソフト(ミャンマーでは不正使用が限定的に認められている)もある程度導入した方が良かったと思う。</p> <p>これはミャンマー側には秘密にさせていただきたいのですが、正確にいうと、今ある機材を使い倒せるようになるには、C/PIにICTTI専従になってもらうしかありません。必要のない機材は買っていません。</p>
10	<p>供与機材の投入タイミングは適切でしたか。「余り適切でなかった」「全く適切でなかった」を選択された場合、その理由も併せてお答え下さい。</p> <p>PMのコースの生徒に貸し出されたPC(ラップトップ)のハード面での問題はなかったが、ソフトウェア(主にMS-Office製品)で、購入後アクティベーションされておらず、またその期限も切れていて、一部生徒のMS-Office製品を使った実習の際に使用できず支障をきたした。</p>
11	<p>本邦研修の派遣人数、研修内容、期間に過不足はなかったでしょうか。「丁度良かった」以外を選択された場合は、どの項目(人数、内容、期間、その他)について、どのような理由からそう判断されたのか、お答え下さい。</p> <p>本邦研修では、三重のCATV2社のWIMAX基地局設置状況や、サービス内容、IPネットワーク設備の見学、WIMAX設備施工時における苦労話などを中心にセミナー形式で研修を行った。これらのセミナーの内容は、実際の担当者が直接行い、一般には公開されていない情報が多く含まれていたため、研修生にとっては非常に有益な経験となったと思われる。WIMAX設備を構築し、サービスを開始し、運用する、というプロセスは、通信事業者の中でもごく限られた技術者しか経験できないことなので、こういった有効な本邦研修は、出来るだけ多くの研修生に体験させるべきと感じた。</p>
14	<p>本邦研修の成果をC/PIは業務で活用していますか。「非常に活用している」「活用している」を選択された場合、その具体例を記入して下さい。</p> <p>新技術の紹介の講義で、本邦研修で使用していたSuicaカードを見せて、ICによる自動改札などの紹介を行ったり、帰国後研修の講義や実習で得た知識の共有を行っていることから、活用していると判断する。</p> <p>本邦研修に参加したAungは、ICTTIのWIMAX設備構築の責任者として施工管理を行っており、本邦研修で学んだWIMAX設備構築のプロセスや、施工時のポイントを抑えて施工管理に役立っている。</p> <p>日本で買ったSUICAカードを見せながら、ユビキタス系の話をしている講師を見ました。(この国では、ユビキタス・コンピューティングは机上の夢物語なので、実体験していないと中々話せないと思います。)</p> <p>今年度本邦研修に行ったネットワークCPは、シスコの研修をマレーシアで受けることが出来たので、現在授業やネットワーク機器の設計で活用している。</p> <p>ミャンマー人であるC/PIにとって、日本へ行く機会は一生にそう何回も無いことから、日本で経験したことを授業で積極的に紹介している</p> <p>参加C/P主催の勉強会(Knowledge Share)の開催</p>

専門家質問票 評価5項目 コメント回答集

16	<p>ミャンマー側が負担するプロジェクト運営費は確保されていますか。もし課題があれば併せてご記入下さい。</p>
	<p>予算として明確に配分されているわけではないので、何事もオンデマンドでリクエストする必要がある</p>
	<p>予算的には問題ないはずなのだけど、電球が切れて点滅していても中々交換しないとか、トイレが汚くてもほったらかしとか、そういう事務処理能力・感性に問題があるように思います。(不便なことに慣れちゃってるのかもしれませんが。)</p>
18	<p>C/Pの組織運営能力は、プロジェクト終了後にICTTIを彼らで運営してゆくの充分とお考えでしょうか。もし課題があれば併せてご記入下さい。</p>
	<p>プロジェクト終了後には、CPの異動が増えると考え。CP内部により新しいCPへの技術移転が行われると思うが、一時的にも授業の質が下がると考えている。</p>
	<p>人的資源不足(質より量的に: Projecct Managerが頻繁に地方出張や他の大学講義に駆り出されている) >UCSY、MOST組織体制面(C/Pを別業務兼務に多々アサイン)</p>
	<p>最新技術へ常にキャッチアップしなくてはならない、ということを全員が肌で分かっているかどうかは疑問。既存のテキストを何年間も教えるのが普通の大学なので、その楽な環境に戻ってしまうことは懸念されます。</p>
	<p>サービス自体は業者が提供するため、PTPサービスの機材の管理などは業者が行う。従って、C/PについてはNWグループが2次保守と2次運用のみが業務の対象となるため、現時点でのNWグループの運営能力で充分である。強いて言えば、C/Pとサービス業者間のコミュニケーションについては今後モニタリングしてゆく必要を感じる。</p>
	<p>PMコースに参加したC/Pに限ってであるが、PMコースを自主的に運営していくためには、もう少し実践による経験および、プロジェクトマネジメントについての学習が必要であると感じる。</p>
19	<p>C/Pのモチベーションは、プロジェクト終了後にICTTIを彼らで運営してゆくの充分高いとお考えでしょうか。もし課題があれば併せてご記入下さい。</p>
	<p>高いと思うが、軍事政権ならではの制約の厳しさ(民間への転職は事実上禁止されているなど)が気がかりだ</p>
	<p>ICTTIには多くの機材や最新の科目を教えることができるので、業務に対するモチベーションは高いと思われる。ICTTIで働く際に結んだ契約のために、プロジェクト終了後にすぐにCPが民間に移動することはあまり考えられない。しかし、現在の学長のもとで働くことに抵抗感を持っているCPが多く、それがモチベーションを低くする最大の要因となっている。</p>
	<p>UCSYとの職務契約がやたらと厳しいので、モチベーションが落ちないかが心配。</p>
20	<p>経験のあるC/Pが、新C/Pを育成する体制は確立されていると思われますか。そのように判断される理由も併せてご記入下さい。</p>
	<p>新C/Pは、まずコースを修了する事によって、一定レベルまで到達できる。次に、Subjectの授業を経験のあるC/Pと一緒に担当し経験を積む事によって、レベルアップできると考えます。</p>
	<p>しょっちゅう教えてます。結構早いタイミングでOJT(授業を実際にやらせる)に放り込んでいるので、新C/Pも頑張らなくてはならない環境にいます。</p>
	<p>OJT(新C/Pは経験のあるC/Pとペアでワークショップなどにアサインされている)</p>
	<p>短期間の派遣期間ではあったが、ネットワーク担当に限って言えば、リーダーが自ら交渉や打合せに出席し、その後のフォローもやっていることから確立されていると思われる。</p>
	<p>専門家の技術移転ではトレンド技術を紹介して、実際に演習を行うが、その際新C/Pは問題なく課題をこなしている。またワークショップのC/Pによる講義に積極的に参加し、理解困難な生徒に教えている様子から、経験のあるC/Pが育成したと思われ、体制が確立していると判断できた。</p>
	<p>短期の派遣であったため、新C/Pの育成体制まで図るには及んでいませんが、ネットワークのC/Pは、セミナーやワークショップ、またはWiMAXやネットワークの設計、構築のアドバイスを受けたすぐ後に、C/Pのメンバーを招集し、自分が教わったことをもれなく伝えようとしている場面が多く見受けられたので、新C/Pが参入した場合でも、育成する体制は確立されていると感じた。</p>
	<p>PMコースの授業や実習中も、理解の進んだ生徒が、分からない生徒に対して教えるという行動が自然と行えており、他者に教える姿勢がよくできていると感じた。</p>
	<p>2回の現地派遣を通して、C/Pだけでなく、UCSYのデータコミュニケーション専攻の生徒数百名にもセミナーを行う段取りが取られており、C/Pの新技術に対する知識普及活動は積極的であると感じた。また、技術移転にて使用した教材などもC/Pに移転されているので、今後も自立発展的にWiMAXあるいは無線技術の普及に努める体制は確立していると考えます。</p>
	<p>一応体制はあるが、まだ事例が少ないので、もう少し様子を見る必要はある</p>
21	<p>C/PはICTTI教官として必要な知識・技術を更新し続けてゆく手立てを身につけていると思いますか。そう判断される理由も併せてご記入下さい。</p>

専門家質問票 評価5項目 コメント回答集

	<p>欲を言えば、実プロジェクトが多々用意されていればよいと考えます。ICTTIだけでプロジェクトに不足するのであれば、NW分野に関しては、民間企業を連携し、無償でネットワークの設計をするなど。</p>
	<p>ネットワークの担当は自らネットワークの構成図や工事立会い等について工夫をしながら実施していること等から今後も知識・技術を更新し続ける手立てを身につけていると思われる。</p>
	<p>テキストの講義内容はシステムのバージョンに合わせて、適宜更新されている。またシステムの様々な問題解決を、自らインターネットやマニュアルから見つけ出し、解決している姿勢から、必要な知識・技術を更新し続ける方法を身に付けていると判断される。</p>
	<p>WiMAXのセミナーやWiMAXシステムの構築についてのアドバイスを通じ、自分が納得いくまで説明を求める姿勢を維持していた。このことから、知識や技術を更新し続けていけると感じた。</p>
	<p>現状の科目に対しては、知識や技術の更新を見ることができる。しかし、IT業界の大きな流れや、科目自体の大きな改変などは、現在も専門家のアドバイスによって行われている。また、実際に授業を行うCPが、マネージメントに自分の意見を言うことが出来ないのも、将来大きな変更を行うことは難しいと考えられる。</p>
	<p>専門家から、どのように最新情報等を得ていくかについていろいろと技術移転されており、それを実践していると考え</p>
	<p>各専門家の方々が開始時期からそのように技術移転しているからだと思います。</p>
	<p>上述のように、能力よりもアティチュードの点でスポイルされてしまう可能性は残念ながら残ります。また、通信環境の制限の問題で、必要なファイルをベンダーのサイトから落とせないことがあるようです。</p>
	<p>C/Pの教育現場には参加していないのでなんとも言えない。</p>
22	<p>自由記入欄です。</p> <p>専門家からC/Pに対する技術移転の段階で、既にWiMAXの新サービスの契約から運用・保守についてのガイドラインを作成するように提言し、ガイドラインとしての管理項目や手順についても技術移転を行っているため、今後サービスを運用し、保守してゆくにあたっては、自立発展的に管理・運用していくための知識はC/P側で習得されている。また、今回業者が導入するサービス機材を利用してICTTIが独自に演習や訓練に活用することも可能なので、自立的に演習を中心とした教育を推進していくための環境は整備されている。</p>


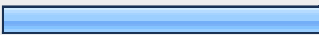
専門家用（実績と実施プロセス）

1. お名前		Response Count
		10
	<i>answered question</i>	10
	<i>skipped question</i>	0

2. ご担当		Response Count
		10
	<i>answered question</i>	10
	<i>skipped question</i>	0

3. もし差支えなければ、回答について照会する時のためにメールアドレスを入力いただけますでしょうか。		Response Count
		9
	<i>answered question</i>	9
	<i>skipped question</i>	1

4. 活動の実績計画していた活動のうち、まだ実施していない、もしくは著しく遅れている活動はありますか。(PDMIに記述されている活動に限りません。PDMIに記述されている活動レベルより下の細かい活動についても振り返ってみてください。)

		Response Percent	Response Count
ある		50.0%	5
ない		50.0%	5
<i>answered question</i>			10
<i>skipped question</i>			0

5. 上記質問にある、と回答された方へ 1) その活動の状況（実施していない、ないし、遅れている）、2) その活動内容、3) その理由、4) それによって成果の達成にどのような影響があったかを記述して下さい。以下は1つの活動についての例です。複数の活動を記述される場合は、同様に続けて、お書き下さい。例：<<活動A>> 1) 実施していない 2) ICT関連大学で講師として勤務する修了生の授業の質をモニタリングする 3) 専門家が他のICT関連大学を訪問する許可が出ない 4) ターゲットグループの、ある一部の教官の授業実施能力を測定できないことになり、授業実施能力向上策を考えるための基礎情報に若干不足が出るが、成果3の発現に大きな影響はない。<<活動B>> 同様に続く、、、

		Response Count
		5
<i>answered question</i>		5
<i>skipped question</i>		5

6. 成果1「ICTTIの組織・機能が確立・強化される」の達成状況成果指標1-1 必要な数の、適切な能力を持つC/Pが確保できていると思われませんか。「余りできていない」「全然できていない」を選択された場合、その理由と、それが成果発現に与えた影響も合わせてお答え下さい。

		Response Percent	Response Count
非常によくできている		11.1%	1
よくできている		77.8%	7
余りできていない		0.0%	0
全然できていない		11.1%	1
「余りできていない」「全然できていない」を選択された場合、その理由と、それが成果発現に与えた影響			3
answered question			9
skipped question			1

7. 成果1-2（「C/Pによって」は評価者加筆）定期的にプロジェクトの進捗が「C/Pによって」モニタリングされていますか。

		Response Percent	Response Count
よくできている		25.0%	2
ある程度できている		50.0%	4
余りできていない		25.0%	2
全くできていない		0.0%	0
answered question			8
skipped question			2

8. 上記で「よくできている」「ある程度できている」に回答された方へ。それはどのような方法で、ですか。

		Response Count
		6
answered question		6
skipped question		4

9. 上記で「余りできていない」「全くできていない」に回答された方へ。その原因は何だとお考えになりますか。

		Response Count
		2
	<i>answered question</i>	2
	<i>skipped question</i>	8

10. 成果2「必要な供与機材が据付、運用、保守される」の達成状況 2-1 プロジェクト期間を通して、過電圧、電圧の振幅が激しいといった問題に悩まされ続けたようですが、現在の状況はいかがですか。もし課題があれば併せてご記入下さい。

		Response Percent	Response Count
全く問題ない		0.0%	0
問題ない		50.0%	4
余り問題ない		37.5%	3
非常に問題がある		12.5%	1
課題がある場合、その内容			4
<i>answered question</i>			8
<i>skipped question</i>			2

11. 上記、過電圧、電圧の振幅が激しいといった問題に悩まされ、解決されて来たご経験から、他の案件への教訓として引き出せる事項は何だとお考えでしょうか。

		Response Count
		7
	<i>answered question</i>	7
	<i>skipped question</i>	3

12. 成果指標2-1 供与した機材は適切に作動していますか。「余り作動していない」「全く作動していない」場合は、その理由も併せてお答え下さい。

		Response Percent	Response Count
十分に作動している		14.3%	1
作動している		85.7%	6
余り作動していない		0.0%	0
全く作動していない		0.0%	0
「余り」ないし「全く作動していない」を選択された方はその理由			2
answered question			7
skipped question			3

13. 成果指標2-2 C/PIによってLANシステムが管理手順書に基づき適切に管理されていますか。「余り管理されていない」「全く管理されていない」場合は、その理由も併せてお答え下さい。

		Response Percent	Response Count
十分に管理されている		0.0%	0
管理されている		85.7%	6
余り管理されていない		14.3%	1
全く管理されていない		0.0%	0
「余り」ないし「全く管理されていない」を選択された方はその理由			2
answered question			7
skipped question			3

14. 成果指標2-3 C/PIによって研修に使うソフトウェアが定期的に更新・管理されていますか。「余り更新・管理されていない」「全く管理されていない」を選択された方は、それはどういう状態になっていて、そうなる原因は何であるかも併せてお答え下さい。

		Response Percent	Response Count
十分に更新・管理されている		33.3%	2
更新・管理されている		33.3%	2
余り更新・管理されていない		33.3%	2
全く更新・管理されていない		0.0%	0
「余り」ないし「全く更新・管理されていない」を選択された方は、それはどういう状態になっていて、そうなる原因は何でしょうか			4
<i>answered question</i>			6
<i>skipped question</i>			4

15. 成果3「教官のICT関連技術における授業の実施能力が向上する」の達成状況成果指標3-1 フェーズ3において、専門家の皆様はC/Pの研修実施能力を、概ね所定のレベルに達したと評価されました。現時点での評価はいかがでしょう。「若干後退した」ないし「非常に後退した」を選択された方は、その理由も合わせてお答え下さい。

		Response Percent	Response Count
十分に達している		12.5%	1
おおむね達している		87.5%	7
若干後退した		0.0%	0
非常に後退した		0.0%	0
「若干後退した」ないし「非常に後退した」を選択された方、その理由は何でしょうか			1
<i>answered question</i>			8
<i>skipped question</i>			2

16. 第3フェーズの時と比較して、C/Pの授業の質は向上していると思いますか。適切なものを選択し、そう判断される理由と、可能であれば具体的な事例も交えてご記入下さい。

		Response Percent	Response Count
非常に向上した		14.3%	1
向上した		85.7%	6
余り向上していない		0.0%	0
全然向上していない		0.0%	0
そう判断される理由と具体的な事例			6
<i>answered question</i>			7
<i>skipped question</i>			3

17. 実務経験の蓄積（実践的ワークショップ）を通じてC/Pのスキル向上を図るため、SW分野としては実際に大学で活用できるアプリケーションの開発を行っています。これはC/Pのスキル向上にどの程度役立っていると思いますか、その理由とともに答え下さい。

		Response Percent	Response Count
非常に役立っている		20.0%	1
役立っている		80.0%	4
余り役立っていない		0.0%	0
全然役立っていない		0.0%	0
その理由			3
<i>answered question</i>			5
<i>skipped question</i>			5

18. 実務経験の蓄積（実践的ワークショップ）を通じてC/Pのスキル向上を図るため、NW分野としてはラインキャンパスの本館ネットワーク整備やロガキャンパスとのWiMax接続設計などを行っています。これはC/Pのスキル向上にどの程度役立っていると思いますか、その理由とともにお答え下さい。

		Response Percent	Response Count
非常に役立っている		50.0%	3
役立っている		50.0%	3
余り役立っていない		0.0%	0
全然役立っていない		0.0%	0
その理由			4
		answered question	6
		skipped question	4

19. 成果4「訓練コースのカリキュラム、シラバス、教材が整備され、必要に応じて改定される」の達成状況成果指標4-2プロジェクト進捗報告書によりますと、カリキュラム、教科書、演習教材、修了試験の改定マニュアルは作成済みとのことです。改定の仕組みが確立され、それら改定マニュアルを活用し、今後C/Pだけで必要に応じて改定してゆける、と考えられるもの全てをチェックして下さい。課題がある場合は次質問でご記入下さい。

		Response Percent	Response Count
カリキュラム		57.1%	4
シラバス		71.4%	5
教科書		100.0%	7
演習教材		85.7%	6
修了試験		100.0%	7
入学試験		85.7%	6
		answered question	7
		skipped question	3

20. プロジェクト終了後も、C/Pが必要に応じてこれらを改定してゆくに当り、課題はありますか。あれば、何の改定に対する、どのような課題であるかをできるだけ具体的に記入して下さい。例： <<カリキュラム改定>> 課題： C/Pの民間IT企業との接触が禁止されており、民間IT企業が求める人材に必要な技術ニーズ把握が困難であり、そのためニーズを反映したカリキュラムに改定できない。

		Response Percent	Response Count
ない	<input type="text"/>	50.0%	3
ある	<input type="text"/>	50.0%	3
課題がある場合、その内容			5
answered question			6
skipped question			4

21. 自由記入欄です。

	Response Count
	1
answered question	1
skipped question	9

22. 専門家とC/P間のコミュニケーションは、時間・質の面で充分に行われていますか。課題があれば合わせてご記入下さい。

		Response Percent	Response Count
大変充分に行われている。	<input type="text"/>	28.6%	2
充分に行われている。	<input type="text"/>	71.4%	5
余り行われていない。		0.0%	0
全く行われていない。		0.0%	0
課題があればご記入下さい			3
answered question			7
skipped question			3

23. C/Pのオーナーシップは充分ありますか。以下から適切と思われるものを選択して下さい。また、そう判断された理由も併せてご記入下さい。

		Response Percent	Response Count
非常に充分ある。		14.3%	1
充分ある。		85.7%	6
余り充分ではない。		0.0%	0
全く充分ではない。		0.0%	0
	そう判断された理由		4
	answered question		7
	skipped question		3

24. 以下の各々の関係者間のコミュニケーションにもし課題があった場合、それは何で、プロジェクト成果の発現にどのように影響したと思われますか。課題があったもののみご記入下さい。
 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ 1つの欄への記入には、改行を入れずお願いします。 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

		Response Percent	Response Count
C/Pと専門家間		0.0%	0
C/PとC/Pマネジメント層 (Project DirectorやProject Manager)間		66.7%	2
C/Pマネジメント層と専門家間		33.3%	1
UCSYとMOST間		100.0%	3
専門家とJICA間		0.0%	0
JICAとMOST間		33.3%	1
その他		0.0%	0
	answered question		3
	skipped question		7

25. 自由記入欄です。		
		Response Count
		2
	<i>answered question</i>	2
	<i>skipped question</i>	8

専門家質問票 実績とプロセス コメント回答集

質問番号	質問とコメント回答
5	<p>活動の実績計画していた活動のうち、まだ実施していない、もしくは著しく遅れている活動はありますかある、と回答された方へ1)その活動の状況(実施していない、ないし、遅れている)、2)その活動内容、3)その理由、4)それによって成果の達成にどのような影響があったかを記述して下さい。以下は1つの活動についての例です。複数の活動を記述される場合は、同様に続けて、お書き下さい。例：<<活動A>>1)実施していない2)ICT関連大学で講師として勤務する修了生の授業の質をモニタリングする3)専門家が他のICT関連大学を訪問する許可が出ない4)ターゲットグループの、ある一部の教官の授業実施能力を測定できないことになり、授業実施能力向上策を考えるための基礎情報に若干不足が出るが、成果3の発現に大きな影響はない。<<活動B>>同様に続く、...</p>
	<p>① 1)遅れている 2)PDM Activity 4-7(UCSYの新しいカリキュラムとシラバスを調査する。) 3)プロジェクト目標に対してあまり緊急性・必要性を感じないActivityなのと、どうしても後回しになってしまいました。UCSYも見せたがりません。 4)特に負の影響は感じません。 ② 1)遅れている 2)PDM Activity 3-10(ICT関連大学で講師として勤務する修了生の授業の質をモニタリングする。) 3)基本的に、UCSYは外国人の大学視察やスタッフへの調査には全く非協力的です。昨年、専門家がICTTIの生徒(=MOSTのDG管轄がUCSとは違う系統の技術大学の講師)に構内でヒアリングすることさえ、大クレームを受けたことがあります。 4)全く何もできないわけには我々の仕事としてもマズイので、何とかならないかProject Managerと模索中です。 ③ 1)遅れている 2)機材・LANメンテナンスのDB管理の徹底 3)細かなロケーションの変動や故障が多すぎて、シスアド担当の能力と根気がついていない。そもそも、「記録をきちんとつける」という国民性ではないというのも大きい。人事異動によるスタッフの入れ替わりも痛い。 4)最低限のレベルの管理はできていると思いますが、個人的にはもっと手をかけて指導してやりたい業務です。</p>
	<p>1-6、4-10 は追加なので延長時にフォローすると聞いています。 4-6は今回ワークショッププレゼンテーション時に企業から招待客にお願い予定です。 4-7は大学に問い合わせ中、4-9は準備中と聞いています。</p>
	<p>1)WiMAX PTPサービスの開始が遅延している 2)UCSYラインキャンパスとログキャンパスとのキャンパス間にWiMAX技術を活用したPTPネットワークを構築する。 3)UCSYとMPT社間の契約と工事が遅延 4)PTPサービスの開始時における検証を支援できなかった。</p>
	<p><<キャンパス間PTP(Point to Point)ネットワークの構築>> 1)WiMAX PTPサービスの開始が遅延している 2)UCSYラインキャンパスとログキャンパスとのキャンパス間にWiMAX技術を活用したPTPネットワークを構築する。 3)UCSYとMPT社間の契約と工事が遅延 4)PTPサービスの開始時における検証を支援できなかった。運用・保守の技術移転において事例を持って技術移転を行うことができなかった。しかし、契約における留意事項や運用におけるガイドラインの作成提案と作成方法の移転を行ったので、今後はUCSYが第2次メンテは行えるよう指導を行ったので成果1-1や成果2-1においては影響なし。</p>
	<p><<WiMAX P-to-Pの建設工事>> 1)工事は実施されているが予定より遅れている。 2)UCSYのログキャンパスとラインキャンパスをWiMAXシステムで接続しIT環境の改善(ネットワークでの教材等の活用等)を行うものである。 3)契約スキームの変更や工事時期が雨季に入ったため着工が遅れたため。 4)設置した機材の使用が遅れることになるが、成果2及び成果3の発現には大きな影響はない。</p>
6	<p>成果1「ICTTIの組織・機能が確立・強化される」の達成状況成果指標1-1 必要な数の、適切な能力を持つC/Pが確保できていると思われませんか。「余りでできていない」「全然できていない」を選択された場合、その理由と、それが成果発現に与えた影響も合わせてお答え下さい。</p>
	<p>C/Pの数は常に足りていないのですが、正直、優秀なPermanent Staffを22名出せる体制にUCSYはありません。PDMの設定にハードルが高かったという風に理解しているので、C/PがUCSYの業務を兼任することを、黙認しています。人材不足の制約条件下では、頑張ってくれていると思います。</p>
	<p>ネットワークCPは、各自得意科目があり、全員がすべての科目を教えることは難しい状況だと思われる。しかし、各科目担当のCPIは問題なく授業を運営していると思われる。今後はフェーズが繰り返される中で、科目のローテーションをすることで解決されると思われる。</p>
	<p>WiMAXを利用したキャンパス間ネットワークの構築が実現され、サービスが開始されれば、ICTTIの機能として確立・強化され、キャンパス間ネットワーキングにおいて大きなインフラとしての役割を果たすはず。</p>
8	<p>成果1-2(「C/Pによって」は評価者加筆) 定期的にプロジェクトの進捗が「C/Pによって」モニタリングされていますか。「よくできている」「ある程度できている」に回答された方へ。それはどのような方法で、ですか。</p>
	<p>Weeklyミーティング等々によってグループ内報告会を行っている。メーリングリストにプロジェクト担当者は、進捗状況を全員に報告している。</p>
	<p>ソフトウェアおよびネットワークに関する定期的スケジュール確認やプロジェクト全体進捗の会議開催</p>
	<p>ICTTIの活動記録、サーバ上の共有ドキュメント、Moodle、グループウェアなどの記録から。</p>
	<p>PTPサービス運用ガイドラインにて、ベンダーとのミーティングを4半期ごとにを行いサービスの報告を受けることを推奨している。また、サービスの監視に関しては、毎月状況報告をUCSYのマネージメントに対して行うことを指導しており、それらが的確に実施されれば、サービスのモニタリングは適宜行われるはず。</p>

専門家質問票 実績とプロセス コメント回答集

	カリキュラムについては、毎回スケジュールやテキストに自主的に手を入れてます。Moodle上の試験結果のレビューはまだ私が声をかけないと自主的にやらないですが、やるとなったら面白がってやっています。教えたら教えっぱなしのカルチャーをなんとか変えたいと思っていますが、レビューした結果、何かの責任を誰かが問われることを極度に嫌うカルチャーが強く、Plan-Do-Seeを徹底できない国民性の限界はあると思います。
9	「余りできていない」「全くできていない」に回答された方へ。その原因は何だとお考えになりますか。
	既にICTTIはJICAプロジェクトの活動よりも研修コース等の継続的な活動の方が比重が高くなってきているため。
	大学が、プロジェクトの自己評価をどのようにモニタリングしているか、わからない
10	成果2「必要な供与機材が据付、運用、保守される」の達成状況 2-1 プロジェクト期間を通して、過電圧、電圧の振幅が激しいといった問題に悩まされ続けたようですが、現在の状況はいかがですか。もし課題があれば併せてご記入下さい。
	問題が収束していると思われる。
	プロジェクト開始時期からに比べると停電時UPS切り替え失敗や、PC焼きつき事故は体感的にですが大きく減っていると思います。
	電源の供給が不安定なため、今後PTPネットワークを提供したとしても、電源が寸断された時点でサービスプロバイダーの責任範囲ではなくなり、UCSY側の問題となるため、電源確保が困難な場合はネットワーク管理とユーザに対するサービスに対する信頼性において問題が発生することが予想される。
	明白に過電圧が理由の機材故障は減りましたが、全く無くなったわけではないので。あと、過電圧が理由かどうかは分かりませんが、機材故障頻度はまだ高いように思います。PCのメモリー、スイッチ類、無線アクセス・ポイント、プリント・サーバー等、このあたりはしょっちゅう壊れてます（現地調達にこだわったため、製品の信頼性に難あり）。
11	過電圧、電圧の振幅が激しいといった問題に悩まされ、解決されて来たご経験から、他の案件への教訓として引き出せる事項は何だとお考えでしょうか。
	UPSについては、一つのICTTI全体をカバーするもの、もしくは教室ごとの教室全体をカバーするものがよかったのではないのでしょうか？UPSを管理モニタリングソフトをサポートしている、内部冗長構成をもった小数の大きなUPSであれば、管理性は向上します。
	UPS(無停電電源装置)だけでは不十分なほどに電源が不安定な国もあるので、電源の安定性や電圧の変動幅を事前に確認しておいた方が良いと考える
	スタビライザー機能を有するUPSの設置、また管理面にて使用しないPCなどはソケット部分でOFFにするなどが有効かと思われる。
	ベンダーとの協力関係を築く事。
	UPSの設置、システムやデータのバックアップ方法
	UPSの性能・耐久性が重要と思います。
	過電圧の問題というのは、私はこの案件が初めてです。（電気が来なかったり足りないことはよくあると思いますが。。）ミャンマーで実施される案件以外は、余り教訓にはならないかもしれません。
12	成果指標2-1 供与した機材は適切に作動していますか。「余り作動していない」「全く作動していない」場合は、その理由も併せてお答え下さい。
	但し、何台かのD-link製Wireless アクセスポイントが動作していないように思う（詳細は調査中）。
	最近供与した機材と、これから調達する機材は、技術移転と設置がまだ完了していないので、すべてが運用されているわけではないが、プロジェクトが終わるまでには運用を始める予定である。
13	成果指標2-2 C/PIによってLANシステムが管理手順書に基づき適切に管理されていますか。「余り管理されていない」「全く管理されていない」場合は、その理由も併せてお答え下さい。
	管理手順書にないオペレーションは、今後も管理手順書が更新され続ける必要がある。
	手順書に基づいた管理というよりは、経験的なノウハウで解決していることが殆どのように見受けられます。これは、停電や一部機材の問題（=だいたいサーバーかスイッチかケーブルのコネクション）以外のLANの不具合が余り発生しないからで、余り手順書を見る必要性がないためです。なので、別に悪いことではないと思っているので、特にこちらも指摘していません。
14	成果指標2-3 C/PIによって研修に使うソフトウェアが定期的に更新・管理されていますか。「余り更新・管理されていない」「全く管理されていない」を選択された方は、それはどのような状態になっていて、そうなる原因は何であるかも併せてお答え下さい。
	新バージョンOpenSUSEがリリースされる都度にICTTI内プロジェクトを組み、PCのOSアップデート、教科書の改訂を行っている。
	ネットワークコースで使用されているソフトウェアとOS(openSUSE)は、フェーズが変わるごとに最新版を使用している。

専門家質問票 実績とプロセス コメント回答集

	<p>研修でMS-Office製品(特にExcelやWord)を利用したが、一部PCが購入後放置されていたようでアクティベーションされておらず、またその期限も切れていて使用できないというトラブルが発生した。</p>
	<p>どうもDBIに不具合があったようで、しばらくの間、更新できなかったそうです。その状況で数ヶ月放置しておいた点には私には憤りでしたが、やり直させてます。</p>
15	<p>成果3「教官のICT関連技術における授業の実施能力が向上する」の達成状況成果指標3-1 フェーズ3において、専門家の皆様はC/Pの研修実施能力を、概ね所定のレベルに達したと評価されました。現時点での評価はいかがでしょうか。「若干後退した」ないし「非常に後退した」を選択された方は、その理由も合わせてお答え下さい。</p>
	<p>ネットワークコースでは、現在専門家の介入が最低限にとどまり、カリキュラム、教材の更新がCPにより、自発的に行われている。CPによって更新されている教科書と、最終試験は、毎回質の向上が感じられる。少なくとも私の経験したほかの案件(キルギス・ルワンダ)と比べると教官の授業実施能力の向上を見ることができる。</p>
16	<p>第3フェーズの時と比較して、C/Pの授業の質は向上していると思いますか。適切なものを選択し、そう判断される理由と、可能であれば具体的な事例も交えてご記入下さい。</p>
	<p>最初はわからない事をわからないままに生徒に説明していた事もあった。今は教科書の内容を十分理解しており、自身をもって授業を行っている。</p>
	<p>研修コースを一回実施するごとに、技術的な知識だけではまかなえない「経験」を積んでいると思う</p>
	<p>第3フェーズには私が滞っていないので比較はできないが、第2フェーズ、第4フェーズと比較し、既に担当するカリキュラムの経験があるC/Pが多く、また初めて担当するC/PであってもC/P間の情報共有という点から十分問題点などの解決にあたっているため。</p>
	<p>各フェーズごとに、CPの自発的な教材の向上が見られる。そのために、授業の質は向上していると考えられる。最近ネットワークコースに配属されたの二人のCPIは、もう少しICTTIでの経験が必要だと思われるが、現在のCPと比べてもポテンシャルは高いと思われる。</p>
	<p>MySQLのバージョンアップに伴いC/P自身での教科書の更新、新科目「データウェアハウス」教科書、演習の自主作成。</p>
	<p>同じような構成のカリキュラムを何度かまわしているのので、以前からある科目についてはこなれてきています。また、メンバーの入れ替えにより、平均的なteaching skillは底上げされています。</p>
17	<p>実務経験の蓄積(実践的ワークショップ)を通じてC/Pのスキル向上を図るため、SW分野としては実際に大学で活用できるアプリケーションの開発を行っていますが、これはC/Pのスキル向上にどの程度役立っていると思いますか、その理由とともにお答え下さい。</p>
	<p>教育に従事しているC/Pが、実際に使われるシステム作成を経験することにより、使い勝手の良さなどユーザの視点に立って作成したシステムを評価する所まで経験できることが、次回システム作成時のスキル向上に繋がっていると考えられる。</p>
	<p>要求定義作成の為の大学のシステムユーザへの聞き取り体験。スーパーバイザとして学生チームの技術サポートで毎回経験を積み重ねている。</p>
	<p>開発経験が無い人達なので、自分の知っている職場環境に関連するアプリ開発を行うことで、ソフトウェア開発実務の経験不足を補完できていると思います。(もちろん、完璧に民間環境の再現にはなっていませんが。)</p>
18	<p>実務経験の蓄積(実践的ワークショップ)を通じてC/Pのスキル向上を図るため、NW分野としてはラインキャンパスの本館ネットワーク整備やログキャンパスとのWiMax接続設計などを行っていますが、これはC/Pのスキル向上にどの程度役立っていると思いますか、その理由とともにお答え下さい。</p>
	<p>Wimax/Wirelessに関しては、IT分野だけではなく、無線通信の知識も非常に求められるので、いい経験であると考えます。</p>
	<p>机上の理論だけでは得ることのできない経験ができています。以前はCPIにネットワーク導入経験がなかったため、授業で十分な説明ができていたとは言えなかったが、この実践的ワークショップにより、授業で適切な説明ができるようになってきている。また教材、試験問題等にもCPの経験が多くフィードバックされているのを見ることができる。</p>
	<p>無線の基礎やIPネットワーク構築の方法など、WiMAX技術だけではなく、NWに関連するC/Pトレーニングや本邦研修を行ったため、C/Pの実用的な知識の向上に努めた。WiMAXを活用した無線ブロードバンドのサービス形態や、品質管理を狙った契約書管理事項や保守・メンテについてのガイドライン作成支援などを通して、C/Pトレーニングで得た知識の習得度や理解度は高い。また、それら知識の適用においても、トレーニングで学んだことを既に学んだ翌週には講師が実際の授業にて適用していたことから、C/Pのスキル向上に寄与していると考えられる。</p>
	<p>無線で長距離をPTP接続するというのは、彼らにとって初めての経験です。将来的には、WiMAX技術ではないかもしれませんが、ミャンマーのように電線インフラがダメなところでは、こういう経験が応用可能なはずで。</p>

専門家質問票 実績とプロセス コメント回答集

20	<p>プロジェクト終了後も、C/Pが必要に応じてこれらを改定してゆくに当り、課題はありますか。あれば、何の改定に対する、どのような課題であるかをできるだけ具体的に記入して下さい。例：<<カリキュラム改定>> 課題：C/Pの民間IT企業との接触が禁止されており、民間IT企業が求める人材に必要な技術ニーズ把握が困難であり、そのためニーズを反映したカリキュラムに改定できない。</p> <p>シラバス改訂：シラバスは一般にあまり作られない習慣があるようなので、教科書を先に改訂する傾向がある</p> <p>現在授業を行っている範囲内であれば、教科書、演習問題、試験問題の向上を見ることが出来る。しかし、業界のトレンドの変化に対して、CPの情報収集能力は低いと感じられる。今後のネットワークコースの方向性や、カリキュラムの修正が必要な科目に関しては、現在でも継続的にアドバイスを行っている。現状ではミャンマーの民間IT企業にはネットワーク技術を持った技術者はほとんどいなく、また体系的なネットワークコースを実施しているのがミャンマーではICTTI以外には存在していない。そのために、最新情報の収集先がインターネットもしくは専門家からの情報のみに頼っている状況となっている。</p> <p>①民間IT企業が求める人材に必要な技術ニーズの把握が困難、②最新のビジネスや技術的な動向などの情報の入手が困難、③実践的な系系の不足、のため、そのそれらを盛り込んだカリキュラムや実習教材の作成は難しいと思われる。</p> <p>情報入手制限(企業研修参加、最新書籍、インターネットアクセス制限)から新技術動向の反映。</p> <p><<カリキュラム改訂>> 課題：入学試験については、民間技術者をターゲットにした短期コースの場合、民間技術者との接触が事実上制限されているので、うまい設問レベルの設定に苦労する気がしています。現状のコースでも、余りその辺を自分達の課題として意識しているように見受けられません。</p>
21	<p>自由記入欄です。</p> <p>短期派遣でWiMAXのサービス提供を受けるための事前調査と、サービスプロバイダーとの契約を支援し、2次運用と保守のガイドラインを作成する支援業務だったため、現時点では技術移転業務が実績となり、成果の発現に寄与できているかは、サービスの工事完了後、サービスの開始以降にモニタリングする必要がある。</p>
22	<p>専門家とC/P間のコミュニケーションは、時間・質の面で充分に行われていますか。課題があれば合わせてご記入下さい</p> <p>ミャンマー人C/Pは、年配の専門家に対して遠慮し、意見の交換、対話をためらう傾向がある。よって週一度のミーティングの機会を設け、意見の交換を行っている。</p> <p>ネットワークコースCPとのコミュニケーションは、マネージメントも含めてWeeklyミーティングや、必要な場合適時行われている。専門家が日本にいる場合も、必要な場合はインターネットメールを用いてコミュニケーションが取られている。</p> <p>学長の扱いに苦労しています。これは、C/Pも苦労しています。</p>
23	<p>C/Pのオーナーシップは充分ありますか。以下から適切と思われるものを選択して下さい。また、そう判断された理由も併せてご記入下さい。</p> <p>生徒のワークショップの評価方法に関して、C/Pがどのような立場で各チームを指導していくか議論し、自ら評価方法を決定していることなどからオーナーシップが十分であると判断した。</p> <p>現在では、ネットワークコースの教材の作成・更新、調達機材の作成、ネットワーク機器の設定などは、すべてCPが行っていて、専門家はアドバイスと確認を行うだけにしている。教材の改定は専門家の指示が無くてもCPが自発的に行っていて、おおむね適切な更新がされていると確認できる。そのために時間はかかっていますが、オーナーシップと責任感を感じることはできていると思われる。</p> <p>各専門家の方々が、そうなるように3年間指導してこられたからだと思います。</p> <p>休日出勤や残業を厭わずに、講義準備やナレッジ・シェアをやってます。他国に較べても、モチベーションは非常に高いと思います。</p>
24	<p>以下の各々の関係者間のコミュニケーションにもし課題があった場合、それは何で、プロジェクト成果の発現にどのように影響したと思われますか。課題があったもののみご記入下さい。</p> <p><C/PとC/Pマネージメント層(Project DirectorやProject Manager)間> 以前はC/PとC/Pマネージメント層の居室が物理的に離れていたために、疎遠になりがちだった。現在はPMが同室なので改善されているが、PMが多忙であることは懸念材料 現場の意図を外した上意下達：C/Pのモチベーション低下/業務量拡大</p> <p><C/Pマネージメント層と専門家間> 以前は軋轢もあったが、現在は良好</p> <p><UCSYとMOST間> うかがい知ることは不可能 大臣のトップダウン命令で動く一方通行コミュニケーションと聞いています。 現場の意図を外した上意下達：C/Pのモチベーション低下/業務量拡大</p> <p><JICAとMOST間> 接触はほぼ不可能</p>
25	<p>自由記入欄です。</p>

専門家質問票 実績とプロセス コメント回答集

WiMAX関連は短期派遣の専門家業務のため、プロジェクト全体に纏わる実施プロセスには関与していないが故、今回無回答とします。

「現場の意図を外した上意下達」は、この国の役所組織の特徴です。役所とはいえ軍隊みたいなものなので、ボトムアップで何か事柄が進むことはあり得ません。

9	上記で「余りできている」を「全くできていない」に回答された方へ。その原因は何だとお考えになりますか。	既にICTTIはJICAプロジェクトの活動よりも研修コース等の継続的な活動の方が比重が高くなってきているため。	大学が、プロジェクトの自己評価をどのようにモニタリングしているか、わからない	
10	課題がある場合、その内容	問題が収束していると思われる。	プロジェクト開始時期から比べると停電時UPS切り替え失敗や、PC焼きつき事故は体感的に減っていますが大きく減っていると思えます。	明白に過電圧が理由の機材故障は減りましたが、全く無くなったわけではないので。あと、過電圧が理由かどうかは分かりませんが、機材故障頻度はまだ高いように思います。PCのメモリー、スイッチ類、無線アクセシブリティ、プリント・サーバー等、この当たりはしょっちゅう壊れます。
11	上記、過電圧、電圧の振幅が激しいといった問題に悩まされ、解決されて来たご経験から、他の案件への教訓として引き出せる事項は何だとお考えでしょうか。	UPSについては、一つのICTTI全体をカバーするもの、もしくは教室ごとの教室全体をカバーするものがよかつたのではないのでしょうか？UPSを管理モタリソングトをサポートしている、内部冗長構成をもった小数の大きなUPSであれば、管理性は向上します。	電源の供給が不安定なため、今後PTPネットワークを提供したとしても、電源が切断された時点でサービスマンが責任の範囲ではなくなり、UCSY側の問題となるため、電源確保が困難な場合はネットワーク管理とユーザに対するサービスに対する信頼性において問題が発生することが予想される。	UPSの性能・耐久性が重要だと思います。 UPSの設置、システムやデータのバックアップ方法
12	「余り」ないし「全く作動していない」を選択された方はその理由	但し、何台かのD-link製 Wireless アksesポイントが動いていないように思う。	スタビライザー機能を有するUPSの設置、また管理面にて使用しないPCなどはソケット部分でOFFにするなどが有効かと思われる。	過電圧の問題というものは、私はこの案件が初めてです。(電気が来なかつたり足りないとはいことはよくあると思います。。。)ミャンマーで実施される案件以外には、余り教訓にはならないかもしれません。
13	「余り」ないし「全く管理されていない」を選択された方はその理由	管理手順書にないオペレーションは、今後管理手順書が更新され続ける必要がある。	最近供与した機材と、これから調達する機材は、技術移転と設置がまだ完了していないので、すべてが運用されているわけではないが、プロジェクトが終わるまでには運用を始める予定である。	
		管理手順書にないオペレーションは、経験的なノウハウで解決していることが殆どのように見受けられます。これは、停電や一部機材の問題(=どいたいサーバー・カススイッチやケーブルのコネクタ以外のLANの不具合が余り発生しないからで、余り手順書を見る必要性がないためです。なので、別に悪いことではないと恐っているので、特にこちらも指摘していません。		

14	「余りないし、全く更新・管理されていない」を選択された方は、それはどういう状態になっていて、そうなる原因は何でしょうか	新バージョンOpenSuseがリリースされる都度にICIT内プロジェクトを組み、PCのOSアップグレード、教科書の改訂を行っている。	ネットワークコースで使用されているソフトウェアとOS (openSUSE)は、フェーズが変わるごとに最新版を使用している。	研修でMS-Office製品(特にExcelやWord)を利用したが、一部PCが購入後放置されていたようでアクティベーションされておらず、またその期限も切れていて使用できないというトラブルが発生した。	どうもDBに不具合があったようで、しばらくの間、更新できなかつたそうです。その状況で数ヶ月放置しておいた点に私は慣りましたが、やり直させてます。
15	「若干後退した」「非断続的に後退した」を選択された方、その理由は何か	ネットワークコースでは、現在専門家の介入が最低限にとどまり、カリキュラム、教材の更新がCPIにより、自発的に行われている。CPIによって更新されている教科書と、最終試験は、毎回質の向上が感じられる。少なくとも私の経験したほかの案件(キルギス・ルワンダ)と比べると教官の授業実施能力の向上を見ることができている。	ネットワークコースを一回実施することに加え、技術的な知識だけではまかなえない「経験」を積んでいると思う	第3フェーズには私が滞っていたので比較はできないが、第2フェーズ、第4フェーズと比較し、既に担当するカリキュラムの経験があるC/Pが多く、また初めて担当するC/PであつてもC/P間の情報共有という点から十分問題点などの解決にあたっているため。	各フェーズごとに、CPの自発的な教材の向上が見られる。そのために、授業の質は向上していると考えられる。最近ネットワークコースに配属された二人のCPは、もう少しICTTでの経験が必要だと思われるが、現在のCPと比べてもポテンシャルは高いと思われる。
16	そう判断される理由と具体的な事例	最初はわからない事をわからなままに生徒に説明していた事もあった。今は教科書の内容を十分理解しており、自身をもって授業を行っている。	研修コースを一回実施することに加え、技術的な知識だけではまかなえない「経験」を積んでいると思う	第3フェーズには私が滞っていたので比較はできないが、第2フェーズ、第4フェーズと比較し、既に担当するカリキュラムの経験があるC/Pが多く、また初めて担当するC/PであつてもC/P間の情報共有という点から十分問題点などの解決にあたっているため。	MYSOLのバージョンアップに伴いC/P自身での教科書の更新、新科目「データウェアハウス」教科書、演習の自主作成。 同じような構成のカリキュラムを何度かまわしているため、以前からある科目についてはこなれてきています。また、メンバーの入れ替えにより、平均的なteaching skillは底上げされています。(ミヤンマー側にはオフレコですが、芳しくなかった人が異動したということとです。ミヤンマー側も、その辺を意識的に新規異動者の人選を行っていました。)
17	その理由	教育に従事しているC/Pが、実際に使われるシステム作成を経験することにより、使い勝手の良さなどユーザーの視点に立って作成したシステムを評価する所まで経験できることが、次回システム作成時のスキル向上に繋がっていると考えられる。	要求定義作成の為の大学のシステムユーザーへの聞き取り体験。スーパバイザとして学生チームの技術サポートで毎回経験を積み重ねている。	開発経験が無い人達なので、自分の知っている職場環境に関連するアプリ開発を行うことで、ソフトウェア開発実務の経験不足を補完できていると思います。(もちろん、完璧に民間環境の再現にはなっていませんが。)	開発経験が無い人達なので、自分の知っている職場環境に関連するアプリ開発を行うことで、ソフトウェア開発実務の経験不足を補完できていると思います。(もちろん、完璧に民間環境の再現にはなっていませんが。)

18	その理由	Wimax/Wirelessに関しては、IT分野だけでなく、無線通信の知識も非常に求められるので、いい経験であると考えます。	卓上の理論だけでは得ることのできない経験ができています。以前はCPにネットワーク導入経験がなかったため、授業で十分な説明ができていたとは言えなかったが、この実践的ワークショップにより、授業で適切な説明ができるようになってきています。また教材、試験問題等にもCPの経験が多くフィードバックされているのを見ることができると感じています。	無線の基礎やPネットワーク構築の方法など、WiMAX技術だけでなく、NWに関連するCPトレーニングや本邦研修を行ったため、CPの実用的な知識の向上に努めた。WiMAXを活用した無線ブロードバンドのサービス形態や、品質管理を担った契約書管理事項や保守・メンテナンスのガイドライン作成支援などを通して、CPトレーニングで得た知識の習得度や理解度は高い。また、それら知識の適用においても、トレーニングで学んだことを既に学んだ翌週には講師が実際の授業にて適用していたことからも、CPのスキル向上に寄与し	無線で長距離をPTP接続するというのは、彼らにとって初めての経験です。将来的には、WiMAX技術ではないかもしれませんが、キャンマのようにならなければならず、このような経験が応用可能なはずでは	情報入手制限(企業研修参加、最新書籍、インターネットアクセス制)から新技術動向の反映。	<<カリキュラム改訂>> 課題: 入学試験については、民間技術者をターゲットにした短期コースの場合、民間技術者との接触が事実上制限されているので、うまい設問レベルの設定に苦勞する気がしています。現状のコースでも、余りその辺を自分の課題として意識しているようには見受けられません。
20	課題がある場合、その内容	シラバス改訂:シラバスは一般にあまり作られない習慣があるので、教科書を先に改訂する傾向がある	現在授業を行っている範囲内であれば、教科書、演習問題、試験問題の向上を促すことができています。しかし、業界のトレンドの変化に対して、CPの情報収集能力は低いと感じられる。今後のネットワークコースの方向性や、カリキュラムの修正が必要な科目に関しては、現在でも継続的にアドバイザーを行っている。現状ではキャンマの民間IT企業にはネットワーク技術を持った技術者はほとんどいない、また体系的なネットワークコースを実施しているのがキャンマでICTI以外には存在していない。そのために、最新情報の収集先がインターネットもしくは専門家からの情報のみになっている状況となっている。	①民間IT企業が求める人材に必要な技術ニーズの把握が困難、②最新のビジネスや技術的な動向などの情報の入手が困難、③実践的な系系の不足、のため、そのそれを盛り込んだカリキュラムや実習教材の作成は難しいと思われる。	情報入手制限(企業研修参加、最新書籍、インターネットアクセス制)から新技術動向の反映。	<<カリキュラム改訂>> 課題: 入学試験については、民間技術者をターゲットにした短期コースの場合、民間技術者との接触が事実上制限されているので、うまい設問レベルの設定に苦勞する気がしています。現状のコースでも、余りその辺を自分の課題として意識しているようには見受けられません。	
21	自由記入欄です。	短期派遣でWiMAXのサービス提供を促すための事前調査と、サービスプロバイダとの契約を支援し、2次運用と保守のガイドラインを作成する支援業務だったため、現時点では技術移転業務が実績となり、成果の発現に寄与できているかは、サービスの工事後、サービスの開始以降にモニタリングする必要がある。					

22		課題があればご記入下さい	メンバーC/Pは、年配の専門家に對して遠慮し、意見の交換、対話をためらう傾向がある。よって週一度のミーティングの機会を設け、意見の交換を行っている。	ネットワークコースCPとのコミュニケーションは、マネージメントも含めてWeeklyミーティングや、必要な場合適時行われている。専門家が日本にいない場合も、必要な場合はインターネットメールを用いてコミュニケーションが取られている。	学長の扱いに苦労しています。これは、C/Pも苦労しています。
23		そう判断された理由	生徒のワーキングの評価方法に関して、C/Pがどのような立場で各チームを指導していくか議論し、自ら評価方法を決定していることなどから、オーナーシップが十分であると判断した。	現在では、ネットワークコースの教材の作成・更新、調達機材の作成、ネットワーク機器の設定などは、すべてCPが行っていて、専門家はアドバイスと確認を行うだけに行っている。教材の改定は専門家の指示が無くてもCPが自発的に行っていて、おおむね適切な更新がされていると確認できている。そのため、オーナーシップと責任感を感じることはできていないと思われる。	休日出勤や残業を厭わずに、講義準備やナレッジシェアをやってます。他国に較べても、モチベーションは非常に高いと思います。
24		C/PとC/PMマネージメント層 (Project DirectorやProject Manager)間	以前はC/PとC/PMマネージメント層の居室が物理的に離れていたために、疎遠になりがちだった。現在はPIMが同室なので改善されているが、PMが多忙であることは懸念材料	現場の意図を外した上意下達：C/Pのモチベーション低下 務量拡大	各専門家の方々が、そうなるように3年間指導してこられたからだと思います。
24		C/Pマネージメント層と専門家間	以前は軋轢もあったが、現在は良好		
24		UCSYとMOST間	うかがい知ることは不可能	大臣のトップダウン命令で動く一方通行コミュニケーションと聞いています。	現場の意図を外した上意下達：C/Pのモチベーション低下/業務拡大
24		JICAとMOST間	接触はほぼ不可能		
25		自由記入欄です。		WIMAX関連は短期派遣の専門業務のため、プロジェクト全体に纏わる実施プロセスには関係していないが故、今回無回答とします。	


付 属 資 料 5

C/P リストとその ICTTI への配属期間と異動先




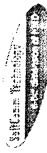
付 属 資 料 6

KMD 社（ミャンマーICT 大手企業）会社概要

WELCOME







Computer Group
Yangon, Myanmar
September 2009

Current ICT Status of Myanmar	
Population	- 56 Million
PC Density	- 380,000 (0.7%)
Tele density	- 840000 Ph (1.55%)
Higher Education:	- 26 Computer Universities
ISP	- Myanmar Post & Telecommunication - Myanmar Teleport
Internet Subscriber	- Over 100,000
KMD Computer Group	
2	

KMD Computer Group

Member Organizations


- KMD Education Services
- KMD Sales & Service Centre
- Direct Channel Distribution (DCD Co., Ltd.)
- Maintenance & Rental Services (MRS)
- Soft Comm. Technology
(The e-biz Dimension of KMD)

Total Work Force - 613 (as of Aug 09)

KMD Computer Group

3

KMD Head Office



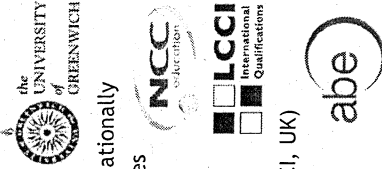
- Located in Strategic Business area
- Area - 25,350 square feet
- Encompass services that may required by students/ consumers
 - Education Services
 - Computer and Accessories sales
 - Internet Cafe & Business Centre

KMD Computer Group

4

KMD Education Services

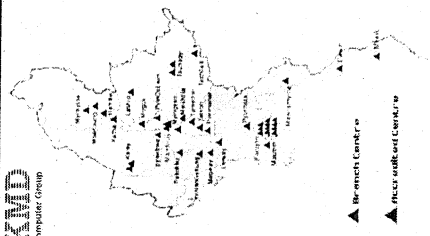
- Established in 1986
- ICT as well as Business & Management training
- Offer self developed ICT courses as well as internationally recognized Certificates up to Masters level courses
- Work Force - 453 (Graduate: 430)
- Associated International Organizations
 - NCC Education
 - LCCI International Qualifications
 - London Chamber of Commerce & Industry (LCCI, UK)
 - Association of Business Executives (ABE, UK)
 - University of Greenwich (UK)



KMD Computer Group

5

KMD Education Services



- 34 Branch Centres in Myanmar
- 2 Branch Centres in Cambodia
- over 500,000 (about 1% of total population) people have been graduated from KMD


▲ BRANCH CENTRE
▲ FIELD SUPPORT CENTRE

KMD Computer Group

6

KMD Sales & Service Centre

- Set up in 1995
- Sales KMD Computer Systems as well as International branded PCs, Notebooks, Servers & computer peripherals
- 2 Branch Centres in Yangon
- 1 Branch Centre in Mandalay
- Work Force - 78

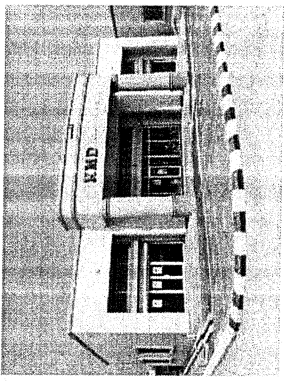


KMD Computer Group

7

KMD Sales & Service Centre

- Coming Soon.. Nay Pyi Daw Branch




KMD Computer Group

8


KMD Sales & Service Centre

Authorized Distributor for


- NEC Computers in Myanmar
- Prolink, Gigabyte, & Verbatim
- Authroised Service Provider for NEC Computers in Myanmar



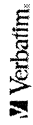
NEC



PROLINK



GIGABYTE



Verbatim

KMD Computer Group 9


After Sales Services

- Free PC Maintenance (or) Introduction to Internet Training
- On Site Installation In Yangon City Area
- One Year Parts Warranty and three year service warranty for Computer System
- Free Support For Antivirus Update
- One year after purchase - Mouse Present
- One and half year after purchase - Keyboard Present


KMD Computer Group 10

Direct Channel Distribution

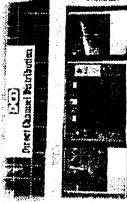

- Set up in 1997
- Distribution of ICT products through dealer channel
- 2 Branch Centres
- Work Force: 37
- Authorized Distributor for Power Tree UPS



DCD




Power Tree


KMD Computer Group 11

Maintenance and Rental Services



- Set up in 1998
- Major Business lines:
 - > PC Maintenance
 - > Networking
 - > PC Rental
- > Consultation for Network Configuration & Cabling
- 2 Branch Centres in Myanmar
- Work Force: 45

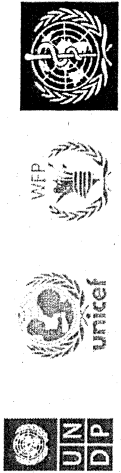



MRS




KMD Computer Group 12

<h2>SoftComm Technology</h2>	13
<ul style="list-style-type: none"> ▪ Established in 2001 ▪ Business line: <ul style="list-style-type: none"> ▪ Website Development & Web Portal Maintenance ▪ E-commerce Solutions ▪ Business Applications Development ▪ 3 Branch Centres in Myanmar ▪ Work Force: 45 	 
KMD Computer Group	13

<h2>SoftComm Technology</h2>	14
<p>Developed Applications for government ministries, banks, iNGOs, UN Organisations and local businesses</p>	
KMD Computer Group	14

<h2>KMD ICT Training -Local Courses</h2>	15
<p>Application courses (short-term courses)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Office Automation ▪ Desk Top Publishing ▪ Graphics Design ▪ Computer Aided Design ▪ e-mail and Web Services ▪ Multimedia and Animation ▪ Summer Kids Course 	
KMD Computer Group	15

<h2>KMD ICT Training -Local Course</h2>	16
<p>Professional Courses (mid-term courses)</p> <p>Software Engineering</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Programming Languages - Java, VB.net, C, C++ ▪ Software Engineering ▪ Software Engineering in Database and e-Commerce <p>Network Engineering</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Practical A+ ▪ Network Engineering ▪ Networking with Linux 	
KMD Computer Group	16

KMD ICT Training - Diploma in IT

- Conferred by Ministry of Education, Myanmar
- Commenced on : August 2001
- Offer in two major cities: Yangon & Mandalay
- Total graduates: 5451 as of Aug 09



KMD Computer Group

17

Number of Students (Local Courses)

Course	2004	2005	2006	2007	2008	2009 (as of Aug 09)
Application Courses	17,354	21544	29,450	32398	36034	22142
Software Engineering	1933	2179	2012	1947	1821	959
Network Engineering	1311	3653	4749	4802	5786	4003
Diploma in IT	445	499	647	426	615	659
Total	21,143	27892	32724	39573	44256	27763

KMD Computer Group

18

UK Qualifications Offered at KMD

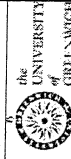
Important Milestones (UK Qualifications & KMD)

- 1992, Accessment Centre of London Chamber of Commerce and Industry LCCI UK (Word Processing)
- 1993, NCC Education's Accredited Centre (started IDCS)
- 1995, IADCS (NCC Education, UK)
- 1996, City & Guilds course (from 1996 to 1998)
- 1999, B.Sc (Hons) in CIS (London Metropolitan University)
- 2001, IDEC (NCC Education, UK) (up to 2005)
- 2004, Brought in LCCI Computerized Accounting courses
- 2004, MSc (in Strategic Business in IT) University of Portsmouth, UK
- 2004, Introduced IDB (NCC Education, UK)
- 2006, Association of Business Executive (ABE, UK) accredited Centre
- 2008, B.Sc (Hons) in BIT (University of Greenwich)

KMD Computer Group

19

International B.Sc (Hons) Degree



- Final Year of UK Bachelor Degree
 - B.Sc (Hons) in Business IT, conferred by the University of Greenwich, started in Dec 2008
- Second Year of UK Bachelor Degree
 - International Advanced Diploma in Computer Studies (IADCS) NCC Edu, started in 1995
- First Year of UK Bachelor Degree
 - International Diploma in Computer Studies (IDCS) NCC Edu, started in 1993
 - International Diploma in Business (IDB), NCC Edu, Started in 2004
 - International diploma in Ecommerce (IDEC), NCC Edu, from 2001 until 2005

KMD Computer Group

20


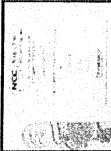

Achievements

Centre's Achievements

- Academic Excellent Award 2005
- Academic Excellent Award 2008
- NCC Education 15 Years Partnership Award among 365 centres from 52 countries by NCC Education (UK)

Students' Achievements
(As of Dec 2008 Exam Session)

- Global High Achiever - 11 students
- Regional High Achiever - 19 students
- Roll of Honors - 35 students

KMD Computer Group 21

Statistics for B.Sc (CIS) Programme

	Global Statistics	KMD Statistics
Student Registered	5857 (since 1996)	657 (since 1999)
Graduated Students	3939 (since 1998)	372 (since 2000)
Passed with First Class	9.8%	9.1%
Passed with Second Class (First Division)	32.1%	35.65%
Passed with Second Class (Second Division)	40.1%	37.46%
Passed with Third Class	16.2%	9.1%

KMD Computer Group 22



Number of Students (Int'l Degree Courses)

	1994 to 2006	2007	2008	2009 (as of Aug)
NCC Courses at KMD Yangon	4728	433	597	358
IDCS - International Diploma in Computer Studies	502			
IDEC - International Diploma in e-Commerce	104	25	2	
IDB - International Diploma in Business	1815	175	228	114
IADCS - International Advanced Diploma in Computer Studies	482	78	61	
BCIS - BSc (Hons) in Computing and Information Systems (London Metropolitan University, UK)				83
BIT - B.Sc (Hons) in Business Information Technology (University of Greenwich, UK)				
PgD/ MSc - MSc in Strategic Business IT	16			

KMD Computer Group 23

Business Management Training

- Started in 2007
- With Association of Business Executives (ABE, UK)
- Business Management & Travel, Tourism & Hospitality Management
- Certificate, Diploma & Advanced Diploma Level

KMD Computer Group 24

Number of Student (ABE Programme)

ABE Courses at KMD Yangon	2007	2008	2009 (as of Aug)
ABE Diploma	26	34	9
ABE Certificate		12	2
ABE Advanced Diploma	35	40	3

KMD Computer Group

25

LCCI Book keeping & Accounting

- With London Chamber of Commerce and Industry (LCCI, UK)
- Group Diploma in Accounting Level 3
- Certificate in Accounting Level I & II
- Certificate in Computerised Accounting Level 2 with MYOB Software
- Certificate in Computerised Accounting Level 3 with MYOB Software



KMD Computer Group

26

Number of LCCI Students registered at KMD

Year	Number of students (LCCI Accounting)	Number of students (LCCI Computerized Accounting)
1998	80	
1999	574	
2000	454	
2001	730	
2002	884	
2003	696	
2004	616	302
2005	808	2677
2006	1120	3764
2007	1531	3774
2008	1671	3649
2009 (as of Aug)	553	1784

KMD Computer Group

27



Publicity & Promotions

- Advertisement in : Newspapers, Journals, Magazines, TV, FM Radio
- Seminars
- Road Shows
- Exhibitions
- Brochures, pamphlets distribution
- Press release
- Fresher Welcome / Certificate ceremony
- Graduation dinner
- Scholarship for qualified students
- Discounts offer




KMD Computer Group

28

Facilities & Resources		29
<ul style="list-style-type: none"> ▪ Fully Air Conditioned Rooms ▪ Over 1,000 PCs deployed ▪ Internet Access (Dedicated internet labs, Free Wireless Internet Access for students and internet cafes) ▪ State-of-the-art Equipment (projectors, scanners, etc.) ▪ Backup generators ▪ Well-prepared Hands-out ▪ Latest Version Software ▪ Experienced Graduate Lecturers ▪ Overseas Lecturers ▪ Overseas Studies Counseling Services 	 	KMD Computer Group

Further Support for Students		30
<ul style="list-style-type: none"> ▪ Provide scholarship <ul style="list-style-type: none"> ▪ For outstanding students for the next levels ▪ For outstanding fresh high school graduates ▪ Study Guide/ personal tutor ▪ Revision Classes/ Mock Exams ▪ Flexible scheduling ▪ Recommendation as a referee for job/study/research 		KMD Computer Group

Staff Development Programme		31																																				
<ul style="list-style-type: none"> ▪ External Training / Study Tour (local or abroad) ▪ Internal Staff Training ▪ Industrial Lecture / Seminar / Workshop / Conference ▪ External Advisor Guidance 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Country</th> <th>No. Staff Sent</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Japan</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td></td> <td>CICC 13</td> </tr> <tr> <td></td> <td>AOTS 28</td> </tr> <tr> <td></td> <td>On Job Training 3</td> </tr> <tr> <td>India</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>Sri Lanka</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>Singapore</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>Philippine</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>Brunei</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Korea</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>Thailand</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>Malaysia</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>China</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>UK</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Nepal</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Hong Kong</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>Total:</td> <td>128 (As of Aug 09)</td> </tr> </tbody> </table>	Country	No. Staff Sent	Japan	44		CICC 13		AOTS 28		On Job Training 3	India	7	Sri Lanka	3	Singapore	14	Philippine	3	Brunei	1	Korea	2	Thailand	34	Malaysia	15	China	1	UK	1	Nepal	1	Hong Kong	2	Total:	128 (As of Aug 09)	KMD Computer Group
Country	No. Staff Sent																																					
Japan	44																																					
	CICC 13																																					
	AOTS 28																																					
	On Job Training 3																																					
India	7																																					
Sri Lanka	3																																					
Singapore	14																																					
Philippine	3																																					
Brunei	1																																					
Korea	2																																					
Thailand	34																																					
Malaysia	15																																					
China	1																																					
UK	1																																					
Nepal	1																																					
Hong Kong	2																																					
Total:	128 (As of Aug 09)																																					

Overseas Studies Counseling Services		KMD Computer Group
<ul style="list-style-type: none"> ▪ Provide information about university & courses ▪ Assist in application process ▪ Consultation for academic career ▪ Associated Universities <ul style="list-style-type: none"> - Assumption University (Thailand) - University of Portsmouth (UK) - Nottingham University (Malaysia/UK) - Middlesex University (UK) - EF Brittin College (UK) - Lodon School Of Commerce (UK) - James Cook University (Singapore/Australia) - Management Development Institute of Singapore (MDIS) - AEC Business School (Singapore) - Taylor's University College (Malaysia) - Legenda Education Group (Malaysia) 		KMD Computer Group

Contact Details:

KMD (Head Office)
550-552, Merchant Street, Kyauktada Township,
Yangon, Myanmar.
Tel: 95-1-381035/95-1-249155
Fax: 95-1-245180
Email: info@kmd.com.mm
Web site: www.kmd.com.sg

